

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

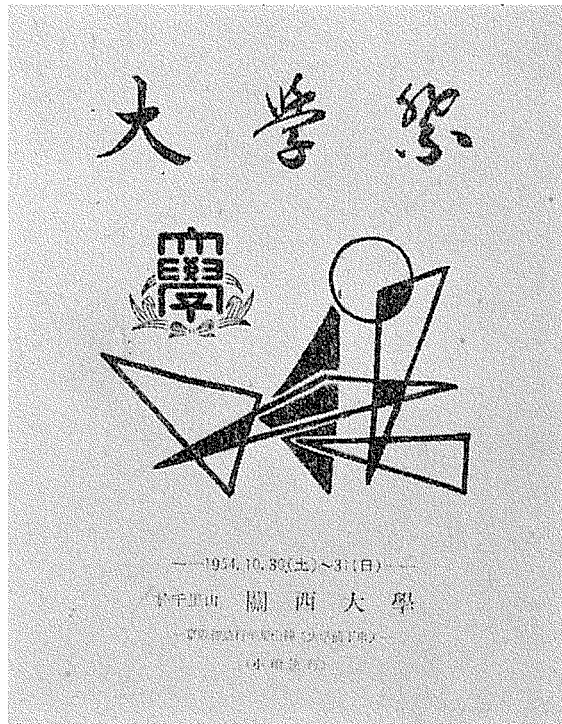
Osaka, Nov. 15th, 1954. No. 274.

關西大學學報

第 2 7 4 号

昭和 29 年 11 月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和二十九年十一月十五日発行(毎月一回十五日発行)
通卷第二七四号



關西大學學報局

想いは三十数年前にさかのぼる——だから、その

当時の私も、まだ三十歳を越えなばかりの年頃のことである。つまり、大正年代末期のことからである。

関西大学も時の潮に乗って、大学令に拠る大学、いわば帝国大学と同様の私立大学に成った。これは大正十一年のことである。新しく昇格した学部（法学部と商学部）と大学予科とを容れる学舎が、このとき郊外の千里山に移された。同時に、大阪実業界の雄であつた山岡順太郎氏が総理事、その側近者であつた四、五人の実業家達が理事として、関西大学の首脳陣を形成された。が、学長は依然として京都帝大法学部教授の織田萬博士であつた。

しかるに、織田萬学長が国際聯盟の常設機関であつた国際司法裁判所の一判事（任期十年間）として

故松本丞治博士の憶い出

— 関大大学長就任のいきさつ —

岩崎 卯一

オランダのヘーグへ赴任されたのを機に、関大大学長の方も辞任されたので、関大理事会は山岡総理事をして学長をも兼任させることにした。関大としてはここにはじめて、地元大阪で有名な現役実業家をもつてする大学の学長が出現し、関係者達の注目をひいた。

山岡順太郎氏は、正規の学歴こそ乏しいが、徳の高い、包容力の大きな、親しみ易い人柄で、立派な総理事であつた。しかし、当時の関大生達や一部の校友達は、現に日本電力株式会社という一當利機関の社長にほかならぬ山岡氏の学長兼任に對して、覆いきれない不満を抱いていた。とりわけ、卒業期を前にした上級生達の間では、学界人でない人の学長名を記入した卒業証書などは有難くないと言つ

て、駄々をこねたこともあつた。

ところで、このことを問題として正面から取りあげたのが、関大校友会の東京支部長であり、関大協議員（今の評議員の前身）中の猛者であつた後藤武夫氏（明治三十年の本学卒業生、後に数度大臣になつた後藤文夫氏の令兄）である。たしか大正十三年度の定例協議員会席上で、このことと言及し、山岡総理事の学長兼任を暗に非難し、且つ、非公式ではあるが、関大創立者の一人であつた手塚太郎氏（長崎控訴院検事長を退いて大阪に閑居中の人）を後任学長の適任者として示唆した。わけも、同年に宝塚で開催された関大校友会大阪支部の懇親会では、東京からわざわざ出向いて来た後藤武夫氏を中心として、この問題についての激しい論議が闘わされた。

山岡総理事は、学長兼任などということは自分の柄でない、と当初から乗り気ではなかつたので、一部の校友達や生達達の要望を快く容れる積りであつたらしい。ところが後藤一派の手塚学長案に不賛成の意向を露骨に示したのは、意外にも、最も有力な校友会である大阪支部の幹部達であつた。そのなかには、現在の関大

理事長である白川朋吉氏の顔もあつた。このような動きを静観していた山岡総理事は、京都帝大にもはや織田萬博士に代り得るような学長適任者なしと見切りをつけ、物色の眼を東京帝大の陣営に向けた。ところが、偶然にも、意想外ともいえる碩学の姿が、人選にあぐんだ山岡総理事の頭に

ひらめいた。それが松本丞治博士であつた。商法学の權威として東京帝国大学の法学部に教鞭を執つていた松本丞治博士は、学者としての天賦の外に、立法技術の才能にも恵まれ、明治時代におけるわが国私法典の生みの親であつた梅謙次郎博士に

き後は、「梅二世」とも呼ばれるほどに、各種の立法事業に關係していた。だから、歴代の政府は、早くから松本博士の才幹と手腕とを高く評価し、博士

を学園外の仕事にもしばしば引き出した。四十歳を僅かに越えなばかりで、政府から法制局長官に招かれたこともあり、また、政府の直轄企業中で最大の規模を誇つていた南滿洲鉄道株式会社の副社長になるなど、その経歴にはまことに絢爛たるものがある。

しかるに、その当時、松本博士は、満鉄総裁早川千吉郎氏の切なる懇請にもかかわらず、副総裁を辭して大連から東京に帰り、そこで弁護士を開業し、多くの大会社の法律顧問をつとめ、在野法曹としての第一歩を踏みだしていた。未だ五十歳に達しない若さであつた。顧問弁護士としての關係筋の一つに、関大の総理事山岡順太郎氏を社長とする大阪の日本電力株式会社があつた。そして、松本博士は、それまでも月に一度だけは、東京から大阪の本社に出張されることになつていたのである。

「月に一回は必ず大阪に來る松本法學博士」という点が、山岡総理事にとつて限らない魅力に成つたことと想われる。直接または間接に、山岡氏と松本博士との間に学長就任の交渉がつづけられ、「月に一度だけ」という厳しい条件のもとに、松本博士は遂に関大の就任を承諾した。もちろん、松本博士の弁護士事務所もまた自宅も、共に東京にあつたのである。

山岡総理事から自分の学長就任と松本丞治博士の学長就任とが発表されたとき、校友達だけでなく生達も、驚嘆の声を発すると共に新学長を謳歌した。手塚学長案のときは、一瞬にしてその影を潜めた。博士とも親しかつた阪急社長小林一三氏にわたしがこの報をもたつた。同氏は、「本當か、本當なら関大にはよすぎるよ」と言つた。「月一回だけ東京からわが大学に姿を見せる不在学長だ」ということが解つたのちでも、松本学長の輝ける名は、なんらのレジスタンスをも発生させなかつた。今から考えると、月並みではあるが、まことに隔世の感がある（学長、法学博士）



رَجِنْتْ اوتيل
 REGENT HOTEL
 BEYROUTH - LEBANON

ヴイーナスの誕生地

廣瀬捨三

海外研究員だより

(キプロス島通信)

エジプトに七月は二十日間もいたのだから日本の皆さんに慤かし同情されるでせうと、カイロの日本大使館の和田さんに云われて別れたのであるが、七月十七日夜キプロス島ニコシヤへ到着翌十八日

になつても暑いことは却つてエジプト以上なのは驚いた。

ニコシヤは周囲三哩の円形の石垣で取囲まれていて、十一の出張つた稜堡がある。外濠は水なく公園になつたりしているし、稜堡の上も広場で子供の遊び場所である。中世ベニス人がこの石垣を作つたという。石垣内は町幅も狭く、通りも不規則に走っている。この内外に新しく出来た町は通りも広く、家も建込んでないのは、丁度イエルサレムとよく似ている。狭い旧市内を歩くとすぐ中央のセント・ソフィヤ寺院に来てしまう。道をへだててベデスタン (Bedestan) と称する寺院の廃墟があり、この二つの見料一志である。ここは勿論英領なんだが貨幣は一ポンドが二十シリングで、一シリングが九ビヤスタ。日本では洋書を

買うのに苦勞しているから、この金が一番却つて判り易かつた。その紙幣には英語の外にギリシヤ語トルコ語が書いてあり、町名の標示も英語とギリシヤ語でしてある如く、住民の五分の四はギリシヤ人、五分の一はトルコ人、あとごく僅かが其他となつていて、宛らギリシヤの田舎へ来たようなものだ。島内を巡つてもガイドの英語もまことに怪しげなもので、自動車道路の途中の休憩所ではギリシヤ語でしか通じないのだから愉快になつてくる。

島内の古蹟は番人がいて、一シリング、四ビヤスタ半(即ち二分の一シリング)等出せばよい。無料のところもある。チップをやつてはいかんと切符に書いてあるし、又やつても受取らない者もあつた。割に皆若いギリシヤ人が番をして丁寧に案内してくれるので、流石英国治下だと大いに感心した。イエルサレム、カイロに較べて小生ここに初めてほつと一息ついたのである。たゞセント・ソフィヤ寺院の番人だけは回教徒のちいさんでチップに何ビヤスタかやると、シリングでくれという。到頭一シリングやつたが、重ね重ね小生は回教徒を軽蔑している。

ニコシヤもそんなわけで半日も歩けば皆見てしまわれて、なーんだということになつて、早く小生宿望のヴィナスの神殿を見なければと、七月二十二日相乗りタクシーで西海岸のリマソル (Limassol) へ出る。この城塞(といつても長方形の石造りの建物だけ)が

半シリングで見せてくれて、中に附近の出土品を蒐めてある。リマソルの少し東のアマヌス (Amathus) も廢墟のある所だが、ここにあつた巨大なベス (Bes) の神像はトルコ人が「掠奪」してしまつて、今はイスタンブールの博物館にありと、写真だけ他の出土品の中に掲げてあつたが、幸福にも私は八月一日イスタンブールの古代博物館で実物を見た。高さ四米もあるうか、エジプトにもこんな大きなベスの神像はなかつた。近東方面の博物館を渡り歩いて比較研究出来る幸福を汲々嬉しく思つた一つである。アマヌスは又獅子王リチャードが上陸した地点とも伝えられており、リマソルの城塞で結婚式をしたともいう。如何にも由緒はあるがリマソルは田舎の港町で、海に沿つて細長くあるだけで、海岸通りの名前だけはパレス・ホテルという、一泊三食付で一ポンドという宿に泊つた。夕方ともなれば前の岸壁の所へテンプルを提出して港を見乍ら食事である。只一人の料理人のおやじがそれでも三度共給仕してくれる。リマソルにも政府のツーリスト案内所があつて親切にタクシーを世話してくれて附近の中世のコロッシン城 (Kolossi Castle) と果樹園及びクリウム (Curium) にあるアポロの神殿やローマ時代の劇場浴場址を見てきた。島の西南端パフォス (Pafos) へ行かうとしたがバスしかないというので、七月二十五日それで出かける。屋根の上へ自転車其他荷物を満載し、窓ガラスなんか無い、棒だけあるポロボスに乗つて三時間程揺られてパフォスへ向う。止せばよいのに益々辺鄙な処へ向うことになつた。

パフォスは既にホーマーにも歌われているアフロデイト (Aphrodite = Venus) 女神の神殿のあつた有名な処だが、クークリヤ (Kouklia) という小村の Old Pap-

hos という。今パフオスというは更に十哩西にある小さな港村でその上手の丘にある町をクティマ (Ktima) といふ、両方合せて Ktima-Paphos 又は土地の人は単に Paphos といつてゐる。New Paphos である。

リマソル・パフオス街道は途中まで海岸近くの丘陵地をうねりにうねつてゐる。それが尽きて平地へ出る手前の海岸にロミオス岩 (Stone of Romios) という大岩が波打際があり、海中にも少し小さな岩がある。この辺りがアフロディテの誕生地と称するのである。海青く煙り白い巨岩を海岸に見て、遙か沖合海の泡から生れた女神を想像してみる。ポツティチェリの名画の舞台はここなのである。幸いにも (?) ボロ・パスは九十九折の道を右に折れ左に折れ、色々な角度からこの岩を見下すことが出来るのである。

それからクークリヤも過ぎイエロスキッボス (聖なる園) という村の広場へくると沢山露店が出ていて、ゴム風船屋もあり、日本の縁日とちつとも変らない。クティマへ入ると客はそれぞれ勝手な処で降りてしまつて、小生唯一人ニュー・オリンパスというホテルへ行きたいのだがというと、運転手は又わざわざ車を返して三階建の瀟洒なホテルへつけてくれた。小生ボロ・パスから埃だらけになり、ワイシャツの背は汗で座席の色がついてゐるのも知らず、このホテルへ乗込んだのである。このホテルでキプロス島へ来て初めて暑さを忘れることが出来た。部屋の東と北がバルコニになつていて風が縦横に入つてくるのである。

ホテルの後は丁度クティマの高台の城壁で遙かに海が見えるので、翌二十六日何程のことやあらんと、このパフオスの港へ出かけたが約一哩半あり、汗びつしよりになつた。

石ころを積んで垣にしてあるパフオスの村を通り抜けて港へ出る。リマソルよりも一層淋しい。港に突出してこれも長方形の城あり、中世のものだ。港のすぐ前の小高い丘に円柱が数本転つて、地下へ行くような階段もあるが、これも「ヴィナスの神殿」と称しているが全くはつたからしである。

村へ入ると聖パウロの繋がれたという柱が石垣で囲んである。村はずれには岩を掘つた地下の墓が神殿とおぼしきものがある。更に大分離れた所に「諸王の墓」と称する岩窟を掘つた墓がある。全く田舎の名所旧蹟



(キプロス島ニコシヤ外濠公園にて)

とも称すべきもので、パレスチナやエジプトを見て来た目には気易く見られるだけ却つて有難味が薄いようだ。ここの子供は小生を見るだけ却つて有難味が薄いようだと何やら判らんギリシヤ語で叫んでいる。城壁の崩れをよちのぼつてホテルへ帰り早速シャワーを浴びる。(以上は八月七日トルコ国チャナッカレの客舎で窓前にダーダネルス海峡を見乍ら記す) あとでホテルから海を見渡せば今行つてきた処が手に取る如く見える。燈台、城の突出したパフオスの港、一艘の貨物船、聖パウロの石柱のあつたあたりの教会と、それ

にパフオスの村が緑の中に包まれてゐる。夜になればパフオスの港静かに更けて燈台のみひとり点滅する。

七月二十七日車を雇つて東十哩のクークリヤへ行く。古えのパフオスで、アフロディテの神殿址と称するものがあるが、これは神殿の附属建物で本殿はまだ発掘されていない。転つてゐる円柱もギリシヤ時代のも、ローマ時代のもある。古代に有名なアフロディテの神殿も今は只一寒村クークリヤの中にあり、これもクリウムのアポロの神殿と同じく海を見下す丘陵にある。この神殿の西に新たに発掘されたローマ時代の浴場址あり、東には神殿の石を使つたビザンチン時代の教会があるが、この内部に稚拙な壁画があり、仲々興味があつた。アフロディテ誕生の地と称する海岸とこの神殿を見て、この島へ来た目的は達せられたのである。

翌七月二十八日早朝相乗りタクシー (といつてもリマソルまで小生一人であつたが、ここで婦人と男二人が乗つてきた) で一気に四時間程でニコシヤに帰りアクロポール・ホテルに入る。やはりここは暑く、夜は窓を開け放し扇風機をかけたばなしでねる。

キプロス島も西部の山岳地帯へ行けば避暑地で涼しく、ここにもオリンパスと称する山もある。北海岸沿いにも山脈が走つていて、ニコシヤから見るとその中に宛も五本の指を立てたようなものがある。名もペンタクテュロス (Pentaktulos、五本の指) と称し、伝説があるのであるが、私は孫悟空を捉えたお釈迦さんの五行山を思い浮べた。リマソル附近とラルナカ (Larnaca) 附近にそれぞれ塩湖あり、ラルナカ附近にはわが弘法筆のような伝説がある。即ちラザルス、キリストの死後ユダヤ人の迫害に耐えずこの地に来



海外研究員だより

フランクフルト・アム・マイン

高木秀玄

バンコック、カルカッタ、カラチ、アバダン、ローマ、チューリッヒと飛び二十二日、丁度昼頃にフランクフルト・アム・マインへ到着しました。飛行機の座席は、スウェーデンのゲイテンボルグ大学へ森林学の研究に行く東大農学部の高橋教授、

ドイツ人の犬好きなこと、聞いていましたが、まるでセメント樽のようなお婆さんの後より胴ばかり長く、足の短いダックル種の犬がヨチヨチあるいて行つたり、これ以上やせられないと思われるグネーデリーゲ・フラウの後より物凄いブルドックがノシノシあるいている様は、直ぐ漫画にでる光景です。

フランクフルト大学の第一内科に行く郡馬大学の七条教授と一緒に。後方の席には林という中国の青年がスウェーデン廻りでオハイオ農大へ留学するというのと、チョーン・フォード一家のマクラグレンとよく似たイスラエルのバイヤーが楽しそうにしています。

チューリッヒの飛行場へ到着する前に、アルプス山脈の上空を飛びましたが、その美しいことは言語に絶するものがありました。耳をすますと、谷間の農場より角笛の音が聞えるかと思われほどでした。気候もチューリッヒでは、室内よりも外の方が寒いと思われるほどで驚きました。

フランクフルトでは、オペラ・ハウスの傍のシウエーレというホテルへ到着しました。夕方ぶらぶら街をあるいてみました。素晴しい復興ぶりでありすが、矢張り戦災のまゝの石造建物が二、三みられました。

二十三日の朝、九時、ボッケンハイマー・ストラッセをあるいてフランクフルトのウオルフガング・ゲイテ大学を訪ねました。まだ早いのか掃除婦が二人で教室の机を大きな雑巾でふいているので、来訪の旨を伝え、附近の森の中を一人で散歩しましたが、バハイ寺院の半分は焼けた門にたゞずみその来歴を讀んでいまして、一人の尼サマが出て来て「中へ入れ」とのこと、熱いミルクを一杯ふるまってくれました。ポツポツ学生達がやつて来ます。血の色のほのかな豊かな青年達ばかりで誰れ一人としてユックリと歩を進めるものがあります。半ば駆足でやつて来ます。「オハヨウ」という声が交又します。一時間目のカトリック教授の講義を聞いて見ました。講義の仕方は、日本の大学と一緒にです。

夜七時三十分より、グリム・ストラッセのパウル・フラスケンパー教授の宅へ晩餐会に招かれました。ホテルの前でタキシードをひろいました。運転手はよくドイツ映画に出て来る運転手と同様にデブプリとふとり、まるい顔に、まるいギョロリとした眼の持主でした。一寸郊外ですので、走る車のヘッド・ライト

り、葡萄を要求したが住民が拒んだので、その葡萄畑が湖になつたのだという。このラルナカにはストア学派の祖ゼノンの胸像あり、更に東のフアマグスタ(Fanagusta)の海岸にはオセロの塔と称する城塞あり、オセロ悲劇の地というが、いづれも日数がなくて行けなかつた。エジプトに懲りて飛行機の予約を早くしてしまつたからである。シエクスピアさえもオセロの塔を見たことがないのだから、まあよからうと思つている。

ニコシヤの城壁のあたりを夕暮歩けば、三々五々娘が連立つて前を歩いているのが、一人、二人自転車を押しており、髪の毛の黒くてパーマがかゝり、ワンピースを着ており、皮膚の色も日本人より黒い位で、日本の田舎の城下町を歩いているような気がした。

ニコシヤのキプロス博物館は小粒乍らなかなかよく揃えてあり、便利な案内書が出ている。カイロのエジプト博物館などはあれ程沢山よいものを持ち乍ら、街でもあるような絵葉書を売っているだけで、何一つ刊行物がなかつた。近東一帯の博物館は地元の良い出土品を持ち乍らキプロス島のような案内書のないのは惜しいことだ。

キプロス島の中央から西南海岸を廻つたのであるが、沿道の川という川は悉く乾上つて水一滴もない。ひどい時に来たものだ。行く先々でコカ・コラばかり飲んで来た。しかし住民はギリシヤ人が多くて親切であつた。

(昭和二十九年八月十四日、トルコ國イスタンブールの客舎にて記す。)(文学部教授)

に道の傍に繁る樹の間に若い恋人同志でしょうか二人づつ、しつかりと肩を並べて語り合つてゐるのです。

しかも申し合したように自転車を持つて
います。やつと教授の宅へつきました。
新しいきれいなアパートです。コトコト
二階へ上ると共に一人の温和な老人がニ
ニコ笑い乍ら迎いに来てくれました。
この人こそ *Allgemeine Statistik*、
Statistik、*Zur Logik der Theorie der*
Indexzahlen の著者だつたのです。

「御迷惑をかけて済みません」と申しま
したが大きく「いや、さあ、どうぞ」と
いい、私の肩を抱いて部屋へ案内してく
れました。土産に持つて行つた西陣織の
風呂敷を出しましたところ、部屋へ入つ
て来られた夫人が目を輝して「結構で
す」の連続でした。書斎の隣の部屋で
晚餐の御馳走になりました。ヒルデガー
ドさんとハンナさんという二人の御嬢さ
ん、先述のカトリック教授も一緒にし
た。ヒルデガードさんは大学で歴史学を、
ハンナさんはバイオリンをやつていろ
のことでした。

話はひとりでは、統計学の問題へうつ
ります。まず友人大橋氏(京大助教授)と足
利氏(京論師、開大論師)によつて同教授
の「一般統計学」が訳されたことを非
常に喜んでおられました。夫人の話によ
れば、お客様には、きまつて、自分の著
書が東洋で訳されたことを語り、その
送られた日本書を見せられるとのこと
でした。なお、これも私の友人ですが、滋
賀大学の有田助教授がその大学の機関誌
にのせたチーヂエリの学説批判について
の論文を、わざわざ書棚よりさがして来
て、「この人を知っていますか？」との
こと、「然り、その人は私の十年以上の

友であります」と申しますとパチパチと
拍手して喜んでいられた。

私は次の三つの問題をたずねました。
(一) 大量観察法の対象としての社会的
集団とサンプリング・メソッドの対象とし
てのユニバースとの関係、(二) 自然科
学に於ける統計的方法の限界性、(三)
社会的集団と解析的集団との関係がこれ
です。一時間半ほど、この現代ドイツ統
計学界の代表的学者より、ある時は声高
く、ある時は囁やくように教を受け涙
の出るほどうれしく思われました。わざ
わざユックリと語つてくれましたのでノ
ートすることも出来ませんでした。感心したこ
とには夫人まで、時々、問題について
意見を述べられることです。

ある書物の出版の年が判らない時は、
ハンナさんが一々調べてくれました。思
わず過ぎた林檎酒に一寸酔いを感じつ
つ「あゝ、ドイツへ来てよかつた」と心の
底より思うのでした。

カトリック教授とは、エコノメトリッ
クスについて語りましたが、ノイマンと
モルゲンステルンの「ゲームの理論」を
徹底的にくさしてました。時計を見ま
す十時半です。失礼しますと申しまし
たが、もう少し話しましょうとのこと、
その後のドイツの学界消息をわしく聞
いて、十一時に、アパートを出ました。
フランクフルト・アム・マインの印象
で、このフラスケンパー教授訪問が一番
楽しかつたので、他の事をもつと書き度
いのですが、今日はこれで失礼します。十
七時〇五分発の飛行機で今日はデュッ
ルドルフへ向います。(経済学部教授)



日本政治学会

日本政治学会一九五四年度秋季研究会
は、十一月三、四日両日にわたり、本学
大学院において開催され、理事長南原繁
(前東大総長)をはじめ、全国各大学から
総出席者数百六十八名の多数を算えた。
本学からは岩崎卯一学長、池田榮教授、
川上敬逸教授及び原英次、上林良一両助
手(以上何れも同学会委員)が加り、充実し
た研究報告と熱心な質疑応答が行われ
た。

第一日には、主題「原子力と政治」に
ついて、田中直吉氏と前芝確三氏より
報告があり、森田康氏より研究発表がな
され、猪木正道氏の外遊帰朝談がなされ
た。

第二日には、第一部会でフアシズムの
諸問題について井上成章氏(柔学出身者)
と荻原義弘氏、第二部会では議会運営
の諸問題について佐藤功氏と吉川末次郎
氏より、夫々研究報告があり、質疑応答
がなされた。なほ、辻清明氏より国際政
治学会出席報告があり、大学院ホールに
於て盛大な懇親会の宴が催され、岩崎学
長が歓迎の辞を述べ、南原理事長より懇
篤なる謝辞があつた。なお、二日目の学
会理事招待午餐会には白川朋吉理事長が
出席せられた。

学会出張

- ◇ 商学部河村宣介教授は十月五日から十日まで明治大学における日本交通学会第十三回総会及公益事業学会に出席。
- ◇ 法学部上林良一助手は十月十五日から十七日まで早稲田大学における社会学会に出席。
- ◇ 商学部板橋菊松教授は十月二十三日から二十五日まで慶応大学における新開学会に出席。
- ◇ 文学部三上謙助教授は十月二十五日から二十八日まで愛知大学における現代中国学会に出席。
- ◇ 文学部飯田正一教授は十月二十八日から十一月三日まで早稲田大学における日本近世文学会に出席。
- ◇ 商学部賀屋俊雄、山崎紀男両教授は十月二十九日から十一月一日まで中央大学における日本商業英語学会に出席。
- ◇ 文学部高橋盛学教授は十月二十九日から十一月二日まで金沢大学における中国語学会に出席。
- ◇ 文学部広岡英雄教授は十月二十九日から三十一日まで東京大学における日本語学会に出席。
- ◇ 短大角田文雄教授は十月三十日から十一月四日まで佐賀大学における日本文学学会に出席。
- ◇ 法学部西本寛一教授は十一月一、二両日関西学院大学における日本私法学会に出席。
- ◇ 短大講師長柄金吾は十一月三日京都大学東支会館で開かれた日本税法学会に「民法の相続と相続税法上の相続」について研究発表した。

學内報

定例評議員会

学校法人関西大学寄附行為第十九条に基づき、定例評議員会は去る十月二十八日(主)午後三時より千里山学会大学ホールにおいて開催。

会議は事業報告がおもで、その他今夏各種委員長の東京諸大学視察報告などが行われた。

出席者(イロハ順 敬称略)

岩崎卯一 岩本公夫 今西庄次郎 池田信之助 西尾専太郎 西村治三郎 西本寛一 戸根泰雄 大石雄一郎 大小島真二 大島武夫 和田豊二 桂忠雄 神宅賀壽恵 榎本信雄 寒川喜一 四辻詮
 武田藏之助 竹澤喜代治 内藤正剛 中谷敬壽 中務平吉 長柄金吾 村尾静明 矢野文雄 矢口家治 保井剛一 松原藤由 江里口春志 阿部甚吉 明石三郎
 澤村榮治 木村健助 宮島綱男 三島律夫 白川朋吉 下條小野右衛門 平井三朗 久井忠雄 關豊馬 角田好太郎 鈴木祥藏 園師親徳

日本私立大連盟関西支部

理事会及懇談会

日本私立大学連盟関西支部の理事会は十月九日(主)午前十時より、懇談会は同十一時より本学千里山学会大学ホール

で開催された。

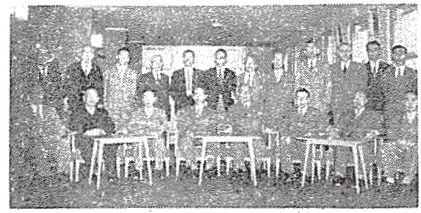
理事会は報告の後

- 一、連盟会長の早稲田大学総長更迭の件
- 二、私大審議会委員及び振興会評議員推薦の件(委員は連盟八、協会四、短大三の基準)
- 三、私学振興予算の件
- 四、十一月中旬京都において連盟本部の会員総会開催打合せの件
- 五、本部理事会開催の件 連盟規約改正の件
- 六、単一保険組合の件

等について協議し、続いて懇談会では学生補導及学生保険問題について種々懇談した。

理事会出席者(順序不同 敬称略)

野田孝明(連盟本部常務理事) 坂村儀太郎(同顧問) 浅野巧美(愛知大学庶務課長) 大塚節治(同志社大学総長) 秦孝次郎(同理事長) 小林康三(同事務局) 泰山捨蔵(同学事課長) 原田脩一(関西学院大学総務部長) 田中左右吉(神戸女学院大学教授) 末川博(立命館大学総長) 山田實(同専務理事) 菊地達貞(龍谷大学庶務課長) 小西小太郎(大阪医科大学庶務課長) 岩崎卯一(支部長 関西大学学長) 板橋菊松(同本部常務理事、商学部長) 杉原常彦(同支部幹事 秘書課)
 懇談会出席者(順序不同、敬称略)
 野田孝明(連盟本部常務理事) 坂村儀太郎(同顧問) 浅野巧美(愛知大学庶務課長) 大塚節治(同志社大学総長) 秦孝次郎(同理事長) 小林康三(同事務局) 泰山捨蔵(同学事課長) 原田脩一(関西学院大学総務部長) 田中左右吉(神戸女学院大学教授) 末川博(立命館大学総長) 山田實(同専務理事) 菊地達貞(龍谷大学庶務課長) 小西小太郎(大阪医科大学庶務課長) 北村安光(天理大学庶務課長) 木村太郎(南山大学



白川理事長に

大阪市民文化賞

本学理事長白川朋吉氏は、十一月三日「文化の日」に大阪中之島中央公会堂で開かれた「文化の日を讃える会」で中井大阪市長から表彰され、第六回目的「大阪市民文化賞」を受賞した。

なお氏は大正十四年から八年間大阪市会議長を勤め、また郷土文化、とくに文楽の保護育成や市立美術館の創設に盡力するなど大阪の文化向上に功績があつた。

石濱教授

「なにわ賞」受賞

文学部石濱純太郎教授は、十一月三日「文化の日」に大阪府教育委員会より「なにわ賞」を受賞した。

文学部長 坂本重武(西南学院大学学長) 岩崎卯一(支部長、関西大学学長) 板橋菊松(同本部常務理事、商学部長) 山田松太郎(同教授、学生部長) 金田雅一(同庶務課、保険主任) 杉原常彦(同支部幹事秘書)

に貢献した人々に贈与するものである
南原前東大総長講演
 本学に於ては新築成れる法文学会の大講堂竣成を機とし、特に前東京大学総長南原繁氏を招聘し、関西大学生全体に聴講せしむるよう、十一月二日午後一時より同講堂に於て、学術講演会を開催した。南原氏は「今後の日本を創るもの」の題下に、二千の聴衆を前にして、二時間にわたる講演を試みられ、終始熱心に傾聴する学生に多大の感銘を与えた。

ロンドン大学

アレク教授来學講演



太平洋会議代表ロンドン大学教授G・C・アレク氏は十月二十一日(主)来日。来日午後一時半より千里山経商学会講堂において左の講演を行った。

演題「イギリスにおける産業国有化について」
 『The Nationalisation of Industry in Great Britain』

孤島苦

高橋盛孝

先月号の本誌に、末永教授が隠岐の総合調査の中間報告をされ、私にも何か書く様にとのお話があった。この度の旅行は、島根大学当局と、末永教授の立てられた周到な計画を实地に施行した訳で、全分野にわたる概観がその主たる目的であつた上に、終始、末永教授と行動を共にしたので、右の中間報告以外に特に報告すべき資料をもつていない。たゞ平素考えている問題について率直な意見を提示して、島大及び本学の各専門の諸教授の御指導を得たいと思つて筆をとる。

二

隠岐の島は四つの大きな島から成つてゐる。その点不思議にも戦後盛に口に乗る我が国の四つの島と一致する。隠岐では主食の半分は内地に仰いでゐる。これ亦、我が国の現状と似ている。隠岐は嘗て、幕末から明治の初にかけて、ほとんど真日本全域にわたり、北は北海道から、南は九州迄の通運業をほとんど一手で行つた為、非常に富むな状態に達した。しかし、今は、その反動というか、極度に不振な状態に置かれてゐる。これも我が国の現状の縮図である。

島の性質上、島外出移が多く、その為、人口の増加率は顯著でない。否、最盛時から見ると幾分減少して居る。しかしこれはこの過剰人口を内地がほとんど吸収してゐるからである。今日のように、地方人の流入を見ると、たゞ失業者群をふやすだけである策ではない。現に、大阪あたりでは、逆に、地方へ還流する傾向さえ見え始めている。日本全体から見れば、人口は益々増加しつつあるし、失業者数は急速に上昇しつつある事は、素人である我々にも分る。

三

島の主食は、何分、土地が狭い上に、山嶽地帯が多く、かなり高い土地迄、耕し盡くされて居り、この上耕地を拡張する余地はほとんどない。今この四つの島の中で、米の自給可能な村は一二村しかないと聞いた。その補給は何か外の産業に仰がなければならぬ。

四

漁業は歴史も古く、四面海にかまされて居り、魚の種類も豊富であり、量も決して乏しい訳ではない。しかしある漁夫の話では、近年めつつきり魚がとれなくなつたと云う。もとは島と島との間の内海でも、十分に彼等の生活を支えるだけの魚が捕れたさうであるが近年は激減し、内海だけで漁業に従事してゐる人はほとんど一人もいない。原因はいろいろあげられてゐるが、陸側に大きな漁業会社があるから、最新式のレーダーを備え

たトロール船が出来、盛に近海を荒し、島の漁業権もこれ等の会社に買上げられ、今更、和船を操つて近海に乗り出しても、その日の生活を支えるだけの收穫もないという。今仮に島の漁夫達が大同団結して、新しい船や技術をとり入れたら、朝鮮との国際的紛糾にまきこまれるし、また第一それだけの資本も、今の漁民達にはないと云う。

五

大きな消費市場を近くに持つていない事も彼等にとつては致命的なものであつた。仮に大阪へ出すとしても、汽船で陸地へ運ぶ為、七、八時間、それから鉄道を利用して、更に十何時間を要する。どうしても大阪近海の物とは太刀打ができない。

八

いは、この地の特産である。これを家内工業的に加工して、出して居る。これだと、日をもつから、いくらか有利である。所が、これも昨冬あたりから、さつぱりよりつかなくなつたと云う。九十九里浜の鰯と云い、太平洋の原爆鰯と云い、日本海の李ラインと云い、誠に我が国漁業史上空前最悪の年と云い得る。この解決はたゞ専門家の指導を仰ぐ外に道がない。先年スコットランドで海の静かな内海へ、海草に対して施肥し、その肥培によつてプランクトンの増殖を促し魚類が平年より二三倍も早く成長するニュース映画を見た。海士郡の内海あたりでこの法を用いて見ては如何であるう。

六

林業は勿論土地が狭いという第一の悪条件はあるが、極めて良好な発育状態にある事は我々素人の旅行者にも分る。閃

西発電の電柱もこゝから供給されてゐるものが少くないと云う。滑稽なのは、隠岐で使用する電柱迄、一度、陸地へ送つて焼印を捺して、またもちかえるのたさうで、こんな小さな事柄に迄、官業には無駄が多い。

七

牧畜は昔の牧畑以来有名である。馬は割が悪い相で、もつぱら牛を飼つてゐる。在来種とデボン種と交配したもので、島前では母牛を飼つて仔を生ませ、道後でこれを養つてゐる。有名な牛の角つきによつて、力の強い種牛を順次に残して行く。多くは肉牛で、内地へも移出してゐる。絶対量はまだ少ないが、将来性のある産業である。

観光地としての隠岐は、風光の美、史跡の豊富さに於て、全国でも稀な好適地であるが、たゞ一寸足場が悪い。鉄道省のA氏のお話では、普通観光団隊は四百人が単位ださうであるが、今の渡船では、せいぜい二百人しか積めない。しかも一番大きい西郷町でも百五十人位しか宿泊できない。他の小さい町では恐らく五十名もどうかと思う。しかも途中の海がしけて欠航する事も多く、又最も景色の良い外海を巡航する小蒸気に至つては、夏でもよく欠航する位である。結局、小団隊が幾回にも分れて来島してもらう以外に、今の所方法がない。出雲大社へお参りする人は、是非もう一足の靴を履いてほしいと土地の人は云う。魚は極めて新しく美味である。釣をやる人にとつても誠に天国である。西郷町の宿の前に夜明けに数人が釣つていたが、見る見る内に目の下七八寸以上の鯛、黒



大学祭

十月三十、三十一の両日、千里山に繰り展げられた大学祭は、名物土人踊りの復活等を織り込み、昨年よりも多数の観衆を集め盛大に行われた。

部公開練習に始まり、各種のクリエーション競技、本学附属あけぼの幼稚園園児の遊戯、等がグラウンドで、経営学舎では、



頃、四方の山や谷から飛び出した土人達が、グラウンドで荒れ狂ふ魚の怪物を退治し、嬉ろこびに、火を燃

いた
傾いた
日が西に
団乱舞、
いで応援
ける。次
旋回を続
学連機が
縦による
部々員操
には航空
ば、上空
展開すれ
の威容を
(土人踊り)

学研、文化、各部の展示会軽音楽部による音楽会、体育会館及び野外特設リング、土俵上では相撲部の公開練習、高校対校ボクシング、等行われ多彩なプログラムに観衆を心ゆく迄楽しませた。

第二日 前日に引き続き快晴に恵まれ、当日の異色あるプログラムは馬術部選手による障碍飛越の妙技は拍手をもつて迎えられ、今年全日本体操選手権に二部で優勝、一部に昇格した体操部が明大との合同公開練習は光彩を放ち、その間にサッカー公開試合、ハンドボール等の公開練習、それ等に引き続き恒例のスポーツ行進、応援団ブラスバンドの演奏に歩調を合わせグラウンド上に本学、体育部の

学園ニュースのラジオ放送

本学では、学生や校友は勿論一般社会の人々に、出来るだけ広く且つ具体的に、その教育プログラムや学園内のニュースを知らせるため、数年前より民間放送会社によるラジオ放送を行っているが、本年度もまた新日本、九州朝日、四国、ラジオ香川等各放送を通じ左のプログラムで実施することになっている。(秘書課)

月 日	講 演 者	新日本放送	九州朝日放送	四国放送	ラジオ香川
十二月二十五日	岩崎 卯一 学長 (関西大学の教育)	16:50	22:30	23:30	23:30
一月 一日	小林一三氏と 岩崎学長の新春対談	17:20	23:30	16:00	16:00
一月 八日	矢口孝次郎 教授 (海外視察談)	17:10	22:30	23:30	23:30
一月十五日	堀 正人 教授 (同右)	"	"	"	"
一月二十二日	中谷敬壽 教授 (同右)	"	"	"	"
一月二十九日	森川太郎 教授 (同右)	"	"	"	"
二月 五日	廣瀬 拾三 教授 (同右)	"	"	"	"
二月十二日	矢口家治一 高校長	"	"	"	"
二月十九日	三島律夫一 中校長	"	"	"	"
二月二十六日	中谷大学院部長	"	"	"	"

やし踊り狂ふとき夕霧は静かに千里山に忍び寄り静かな闇の中に焚火の焔が燃え続けていた。

闘斗部 早慶、関関連合ボクシング戦は十一月一日大阪府立体育館で行われたが、関関連合軍が早慶連合軍を破った。当日の戦績は次の通りである。

十一月一日 関、関 5-4 早、慶
シュニャーフライ級 於大阪府立体育館
○鷺見(関大) 判定 山口(早大)

中塚(関学) 判定 小林(慶応)
フライ級
○辻本(関学) 判定 内田(慶応)
○佐藤(関大) 判定 益戸(早大)
バンナム級
三田(関大) 判定 杉山(早大)
○稲葉(関大) 判定 伊藤(早大)
フニザー級
武内(関学) 判定 金子(慶応)
長沢(関学) 判定 FKO二回
1分48秒 石井(慶応) ○
ライト級
○川島(関学) 判定 鈴木(早大)



校友 バツチ

校

友

校友総会

昭和二十九年度校友総会は十月三十一日（日曜日）午後一時より千里山学舎の増築学舎大講堂で開催された。

前日来の恵まれた晴天で、しかも恰も大学祭の第二日目に当たっているので学園はグラウンドの各種競技、教室内の催物等で大人気を呼んで、早朝から陸続と詰めかける大学祭観衆の人々で埋まれている。家族連れの校友の姿がその間に散見する。新築学舎の偉容に接して感嘆の声を放つ父兄の声、校友の囁きが随所に聞かれる。

本部に到着した総会出席通知総数は壹千九百二十名で予想以上の嬉しい報らせに係員は大慌てで会場の補助席を設ける。総会は午後であるが朝から四十三名の係員が夫れ夫れの部署で受附を開始する。受附は記念品を渡すこと、並びに校友会案内の印刷物を渡すことで懸命である。

会場である新築大講堂は正面に豪華なビロード緞帳が二重に張られ白壁に映えてまことに美しい、左右には絢爛たる校

友会旗を配し、大花瓶の活け花、中央の大テーブルのスピーカーが静物画の様にひっそりとして人待顔である。会場前には茶菓の接待所を設けて係員が待期している。

正午、白熱した競技場の歓声拍手の間に学内放送で校友各位に総会時刻がアナウンスされる、開会の時刻が迫つて校友が会場の席を埋める。

午後一時、司会者寒川憲一氏より開会の宣言があり次で三好万次副会長から開会の辞、会長である岩崎卯一学長から挨拶があつた後、会長議長席に着く。

事業並に会計報告を長柄金吾副会長が担当、詳細に二十八年度の各種事項、常議員会、会則改正等審議委員会、対校友会折衝委員会のこと、各地支部状況の報告、会員章制定、校友会入会式等に付説明があつた。

校友会館設置に関する報告はクラブ設置委員会委員長である樫本信雄氏から其の経緯に付、又将来の方針に関して報告があつた。

議事に入る。会則改正の件に付て委員梅原貞次郎氏から其の改正理由を説明し、別項記載の如く会則は承認になつた。次に白川理事長及び久井専務理事より各々挨拶あり、司会者から新任支部長の紹介があつて喝采裡に終り、一同懐かしの学歌を斉唱し閉会された。

尚、大学院円形教室に於て映画「躍進

開大」を映写、母校の学生生活の一端にしばし学生時代への郷愁に耽つた。当日出席された地方支部代表者は左の通りである。

- 大阪支部長 中務 平吉
- 福島支部長 山田 俊治
- 住吉支部長 真鍋竹治郎
- 東住吉支部長代理 松井 剛
- 旭 支部長 寺西 武
- 豊中支部長代理 榎原 武雄
- 貝塚支部長 北村 専一
- 川辺支部長代理 磯野 充賢
- 神戸支部長 山崎 敬義
- 和歌山支部長代理 小堀 欣二
- 石川支部長 中西 与七
- 岡山支部長 神崎伝次郎

関西大学校友会会則

- 第一章 總 則
- 第一条 本会は関西大学校友会と名づける
- 第二条 本会は母校関西大学の隆盛を図り会員相互の交誼を厚くすることを以てその目的とする
- 第三条 本会は其の目的を達するために左の事業を行う
- 一、学報の配付
- 二、会員名簿の発行
- 三、会員の懇親並びに慶弔
- 四、その他本会の目的を達するために必要な事項
- 第四条 本会は本部を関西大学本校内に置き支部を必要な地に設ける
- 第二章 会 員
- 第五条 左の資格を有するものを会

員とする
一、学校法人関西大学の設置する学校又は前身である法人の設置した学校若しくは関西法律学校を卒業した者

二、推薦校友
三、学校法人関西大学の設置する学校において現在役員及び専任の教職員にある者

第六 条 会員は毎年六月末日までに会費金参百円を納めなければならない新入会員は入会と同時に金参百円を納めなければならない

第三章 役 員
第七 条 本会に左の役員を置きその任期は二年とする
会 長 一 名
副 会 長 三 名
常 議 員 三十名
代 議 員 若干名

第八 条 会長は総会で会員中からこれを推薦する
第九 条 副会長は常議員会でこれを推薦する

第十 条 常議員は代議員会で互選によつてこれを定める
第十一 条 代議員は総会で会員中からこれを選出する

第十二 条 本会支部の代表者はその任期中職務上これを代議員と認める
第十三 条 会長は会務を統轄し総会・常議員会及び代議員会を招集し、その議長となる

副会長は会長を補佐し会長に支障あるときはこれを代理する



校友会 総会 (久井専務理事挨拶)

委託する

第四章 總 会

第十七条 定時総会は毎年一回これを開催する

臨時総会は常議員会で必要と認めるときこれを開く

第十八条 左の事項はこれを定時総会に提出しその承認を受けなければならぬ

- 一、前年度收支決算
- 二、財産目録
- 三、事業報告

第十九条 総会の決議は出席会員の過半数でこれを定める、可否同数のときは議長がこれを決する

第二十条 本会の経費は入会金、会費その他の収入を以てこれに充てる

第二十一条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日を以て終る

第六章 支部

第二十二條 本会支部は支部規則会員の住所氏名及び職業等を本会本部に報告し常議員会の承認を得るものとする

第二十三條 本会支部には事務所を設け役員を置く

附 則

第二十四條 本会則は代議員会出席者の三分の二及び総会出席者の三分の二以上の同意がなければこれを変更することができない

校友会代議員会

校友会代議員会は十月卅一日午後十二時半より千里山学舎法・文学部第二教室に於て開催、当日は総会の直前であり、盛会であつた。

代議員会次第

- 司会 寒川 常議員
- 一、開会の辞 三好 副会長
- 一、会長挨拶 岩崎 会長
- 一、事業並に会計報告 長柄 副会長
- 一、校友会館設置に関する報告 樫本 常議員

一、議 事

会則改正に関する件

一、閉 会 梅原 常議員
尚、会則改正は可決され、午後一時より開催の総会に提案されることになつた。

但馬支部創立總會

豊岡、城崎、浜坂、香住、八鹿と校友会が分散して連絡にも困難であつた懸案の但馬支部結成は、以前からは非に米田兼光氏を中心に高垣、余根田、伊賀、西村、森、松井、浅田、丸谷の校友各位の熱心な協議の結果、八月二日母校より安井校友課長を迎え浜坂に集合、一同発動機船に便乗し園定公園但馬海岸洞門巡りの清遊を兼ね支部発会の集いをも母校の躍進振り、将来の計画等を聞き一同

びこれを機に母校創立七十周年記念拡充資金募集にも積極的に協力する事を申合せた。

関西大學修士会總會並理事會

関西大學大学院修士課程修了者により結成されている修士会の第四回總會は、去る八月二十二日曜日午後一時より大学院学舎教室にて安橋副会長の司会で開催、宮田会長の挨拶に次ぎ藤井副会長の事業並に会計報告、二十九年度事業計画予算承認の後、議事として、論文集の件、母校寄附金の件等を附議し、役員任期満了による新会則による理事承認、懇談会の後閉会。続いて臨時理事會を開催、新会長、副会長は前会長、副会長を選出した、常任理事は会長、副会長に一任と決定した。

新役員

- 會長 宮田 輝徳
- 副會長 安橋 貞雄 藤井 昭三
- 理事 田中 修 中井 勇 松井 信雄
- 明松 俊雄 森山 滋雄 栗駒 正和
- 栗林 章 溝田 一夫 上田 昭三
- 楠 正君 津川 正幸 佐藤 修吾

昭六会秋季總會

菊花香る十月三十日関西大學千里山学舎大学ホールに於て秋季總會を開催。總會に先立ちほゞ新築完成した法文学舎を見学後總會に入り、上野氏の現状報告と創立七十周年記念寄附について説明の後恩師岩崎学長先生より祝辞があり最後に先生の長壽を祝し今後の昭六会の発展を約し午後七時すぎ学長先生の発声により昭六会の万才を唱して散会した。

出席者

岩崎学長
 有賀 司郎 青野 昌平 朝倉 茂直
 今井 憲夫 池田 武一郎 上野 俊彦
 岡部 俊吾 小野 武一 奥川 武郎
 喜多 由造 楠井 文雄 後藤 幸重
 齋藤 善三 鳴尾 芳太郎 中谷 勝
 中村 正次 福原 菊治郎 長尾 昇
 久井 忠雄 福原 菊治郎 清田 文和
 三谷 久男 道端 長策 門田 文三
 柳沢 幸治 吉川 敬一

昭五会總會

昭和五年大学部卒業以来二十五年終戦後初の同窓会を去る九月二十五日(土)堂ビル九階清交社クラブの別室にて開催、集つた者は意外に少なかったが相当の年輩になつている同窓は久し振りに懐旧の情を温め和やかな中に散会した。

出席者

藤本 栄太郎 高橋 孟 中村 敬次郎
 今井 司 永島 晴敏 宇津 昌義雄
 中村 直昌 河野 吉雄 鈴木 武夫
 山本 克己

東京支部秋季總會

岩崎学長の東京を機に会員へ連絡し十月十五日秋季總會を開催、北村徳太郎(改進黨最高顧問) 金井正夫(元代議士) 大上司(代議士) 山本仲次郎(弁護士)氏等の大先輩を初めとし最近の卒業生も出席西園支部長の開会の辭に始まり、学歌斉唱に母校をしのび元学長松本政治博士の御永眠に対し哀悼の黙禱を捧げ終つて中山支部長より母校創立七十周年記念寄附金について全会員に強く要望、会則変更を決定、学長より母校の近況と將來の發展について詳細な説明を聞き、自由党総務原



昭六会秋季總會

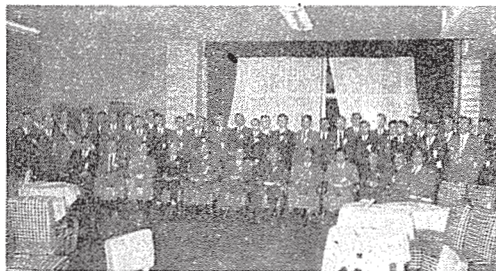
田憲代議士、日立製作所取締役村上長植(代理) 両氏に推薦校友証書授与後自己紹介をして一同和氣霽々裡に瀬尾副支部長の閉会の辭を以て散会した。翌々日十七日は明治座の新聞劇「司法権」の観劇を行った。

之は見島惟謙先生の所謂大津事件の劇化で校友北条秀司氏の原作演出にかゝり當時の大審院長母校設立関係者見島惟謙先生が校友辰巳柳太郎氏が扮する當時の首相松方正義を説得する熱演であつた。

出席者

岩崎学長
 支部側
 支部長 中山 幸市
 副支部長 香西 政一 瀧尾 永治
 中 田中 寿敏
 幹事 中村 雄蔵 河合 治
 中村 簡吉 遠藤 敏雄 筒井 淳造
 弓削多義郎 森本 定雄 門田 侃

村崎 正幸 目代 新平 赤木 栄
 島 秀曉 相談役 田辺明四郎 安田日出男
 顧問 平岡 啓道
 植田 八郎 畑 孝二郎 北村徳太郎
 金井 正夫 山本仲次郎 原田 憲
 大上 司 梅田 茂 鈴木 康之
 藤本比佐志 野崎 真三 新井忠二郎
 柴田 保 諏訪富三郎 池田 忠雄
 田野 数衛 沢田 勇夫 倉光 安峰
 永沢 勝一 榊島 明 友岡 補雄
 金子堅太郎 一山 光男 久保 喜一
 藪野 樹男 村上 謙一 吉村 正春
 三枝 芳郎 岸副 旦 吉田 慎三
 佐野利三郎 喜田 昭男 片山有終英
 田中 美 吉田 有宏 平井 優
 小正 英



東京支部秋季總會

發展に盡力せられた会員栗坂諭氏が今般札幌高等檢察庁公安部長検事に榮転になつたので歓迎祝賀会を兼ねて開催。向井俱樂部常務理事の開会の挨拶の後、山崎俱樂部理事長、白川閣大理事長、中藤神戸地檢公判部長検事、原田鹿太郎弁護士より夫々栗坂検事に対し祝辞及び激励の挨拶を述べられ栗坂氏より感激に満ちた答辭があつた。次いで西村監事より母校の近況について詳細な報告があり引続き宴会に移り歓談盡くるところを知らず和氣霽々裡に九時すぎ名残りを惜しみつゝ散会した。

出席者

白川理事長 安井校友理事長 秋山校友
 山崎 敬義 栗坂 諭 原田鹿太郎
 水本 信夫 土井 美弘 難波 方

神戸関大俱樂部秋季總會と栗坂部長検事歡送会

神戸関西大学俱樂部は十月二十日午後六時より北京樓に於て秋季總會と俱樂部の



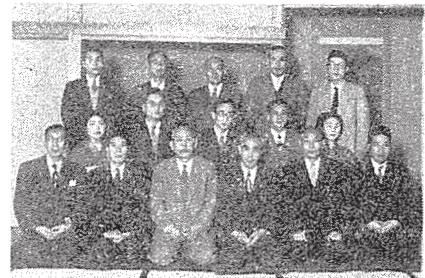
星野 正身 山本 春治 西村治三郎
 向井 裕亮 片山菊治郎 角田好太郎
 吉田 正幸 中藤幸太郎 橋本 太一
 今岡 琢郎 木田 由建 岡本 徳
 吉本 登 春木 一夫 井沢 国雄
 森 又雄 渡辺 道男 小川 立朝
 榎本 昭 山本 鎮郎 照 繁造
 西光 健次 森 知己 鳥村猪之助
 吉田 貞澄 菊池 圭一 大野 幸雄
 貴村 一雄 松岡 行雄



神戸関大倶楽部秋季総会

福岡支部秋季総会

十月二十四日午後二時より福岡市羽川畔
 風琴亭で福井支部秋季総会を開催、支部
 長内藤哲広氏の挨拶に始まり、幹事千田林
 作氏の会務報告、内藤支部長より母校寄
 附募集の協力に対して感謝のことばを述
 べ、山口幹事の庶務一般の説明を終え、
 懇親会に入り、三十年の歩みと距りのあ
 る同窓の人々が温い友情の裡に母校を語
 り、恩師を想い、友を懐しみ楽しく午後



福岡支部秋季総会

六時散会した。

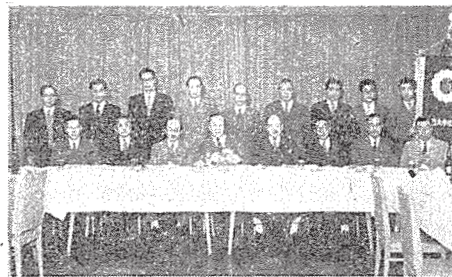
出席者
 支部長 内藤 哲広
 副支部長 小寺 藤作
 幹事 千田 林作 山口 俊雄
 大野 一雄 御堂河内四郎 牧村 貞彦
 川上 清三 北山 種夫 堂垣内繁信
 長崎 芳雄 中村 龍公 紅谷 一男
 五十嵐一栄

福岡支部秋季総会

福岡支部秋季総会は十月二十七日午後五
 時三十分より福岡市天神町クラブ九州に
 於て校友西南学院大学教授八田薫氏が十
 一月九日学術研究の為渡米される歓迎会
 を兼ねて開催。学校側より矢野常務監事
 出席、大学の近況について説明あり一同
 感激、北村徳太郎氏の渡米談は席上一段
 の花を添え満場和気藹々裡に散会した。
 尚北福岡地区の世話は根津菊次郎氏にお
 願いする事になった。

出席者

学校側 矢野常務監事 秋山校友課員
 支部側 北村徳太郎 八田 薫
 玉置昭留男 中村 敬直 馬場 円吉
 根津菊次郎 高山 明一 村田 正義
 宮崎 久樹 石田 孝之 須田喜三男
 福原徳三郎 大原英二郎 大串 新
 清原俊之助 外谷 正元



福岡支部秋期総会

千里山昭八会

十月二十三日(土)午後五時半より京都
 新京極「奈仁和」に於て第二十九回例会
 を開催、今回は京都の末下、西村、西田
 の諸氏に依つて準備され、誠に心地よき
 例会であつたことに對し、心から京都の
 校友達に感謝の意を表する。一同を喜こ
 ばしたことは恩師の中谷教授が欧米の在
 外視察研究から帰朝早々の疲れの面も多
 忙の処を拵げて来席頂いたことであつ
 た。六時開会、幹事より母校七十周年記
 念拡充資金の昭八会としての応募状況及

(8頁より続)

鯛、ひしやご、くるえ等どんどんつれて
 いた。皆、ベケツに一杯つめていそいそ
 と引上げて行く。

史跡めぐりをした土地の人から昔話を
 聞くのも楽しみであるし、殊に、土俗方
 面ではいろいろ珍しいものが残ってい
 る。四月頃から十月頃迄、島の各所の神
 社、仏閣でお祭が催され、全国でも類の
 ない珍しい祭が少くない。年中行事でも
 よく古風を存し、正月、盆行事等珍しい
 ものが少くない。一応案内記の類でこ
 うした時期をしらべて行かれると必ず面
 白い收穫がある。自然科学方面でも、新
 旧各時代の地層が標本的に集まつて居り
 蝶や植物界にも鳥独特のものが数種あ
 り、神社の境内には原始雑木林が見られ
 る。各方面の専門家の来訪を待つてい
 る。(一九九二年十二月、文学部教授)

び其他雑件について報告し尙一層の協力
 方を要望した。次で吉田氏代表して中谷
 先生に對し歓迎と感謝の御挨拶を述べて
 小宴に移つた。京洛の紅葉に接するには
 少し地域的に無理であつたが、秋天澄み
 きつた新京極のネオンに顔を火照らしな
 がら、二十年振りに会ふ友もあつて誠に
 捨難い情景と感興とを湧かした。次回は
 楽しみに午後十時散会した。

当日の出席者
 中谷 敬芳
 浦野健二郎 芝崎 進 西村 義雄
 辻 明 中家 利昭 広田 憲信
 結城 丙太 木下 忠夫 田淵 三郎
 藤本順二郎 吉田 一郎 西田 春造
 大島 武夫 多賀 恒一 平井 三朗



想 隨

人間論

江里口春志

大体人間には才子肌の人と重厚肌の人と両方の型に分け得ると思う。(中間型も相当あるが)青年、壯年、老年を通じてその人の性格行動から分類すれば種々の分け方もあるが、是はと思ふ人物を才子肌と重厚肌との二つに大別することが出来る何れも有為有能の人材として社会に活動する人々であるがどちらが重きをなすか又將に將として何れが大成するかは頗る興味ある問題である、何人にも長所あると共に短所がある、才子肌の人物の長所は機敏で理解が早く要領を掴むことが早い、軽快で何事にも気が付き才略縦横、臨機応変、当意即妙、場当たりが上手で人に好感を与へることが巧みだ時に八面玲瓏たる所可ならざるはなく、何事にも間に合い重宝がられる。重厚肌の人物の長所は、慎重にして思慮周密落ちついて何事にも狼狽せず、又容

易に興奮せず、前後を考え將來を慮がり、事を苟しくしない。焦らず、急がず、寡言実行の方で熟慮断行すれば輕輦に変更しない、當てになる人として他より信頼を受けるのである。その短所は即決即断が出来ないで、遅延する嫌いあり、事務濫滞の恐れがあり、不活潑で愚図々々する傾きがあつて賢いやら馬鹿やら判らぬ様な煮え切らぬこともある、才子肌の人は間口が広くても奥行きが浅いものが多い。之に反し重厚肌の人は何となく奥行きがある様に見られるものだ、勝海舟が或時人に語つて言うのに「おれは今迄に天下に恐しいものを二人見たそれは横井小楠と西郷南洲とだ、横井は西洋の事は沢山知らないから、おれが教えてやつたは、おれなどは梯子を掛けても、とても及ばぬと思つた事が屢々あつた、横井は自分に仕事をやる人ではないけれども、若し彼の言を用ゆる人が世の中に在つたら、それこそ由々しき大事だと思つた、その後西郷と面会したらその意見や議論は寧ろおれの方が優る程だつたけれども所謂天下の大事を負担する者は果して西郷ではあるまいか、と密かに恐れた。」と語つたが、勝氏が才子肌の人とすれば西郷、横井は重厚肌の人で、奥行きが深いことは測り

知れなかつた一朝重大な事ある時には、才氣煥發の人も必要だが、それよりも度胸あり、胆力あり、深思熟慮の重厚な人物が偉力を發揮することが多い。斯る人は国家の重石となる人であり、会社等にあつても重役となる人物である、大山巖元帥は日露戦争に総司令官として赫々の功を奏したが、元帥を最も多くすけたものは総參謀長児玉源太郎大将であることは言ふ迄でもない。目から鼻へ抜ける鋭敏なる児玉大将の作戦計画と、泰山前に崩るゝとも色を変じなかつた大山のあの自若たる胆力が、士氣を旺ならしめた、大山元帥の偉大なる力は特筆すべきものがある元帥が七十五才で薨去されるや國葬を以て葬られたが、當時の國葬の御沙汰書には「重厚なる其の人、赫灼たる其の勳聲望一世に高し、今や溘焉として長逝す、涕零軫悼に勝へん」とあつた元帥の重厚肌は一般の認むる所將に將たる大器であつた、才子肌の人物は剪刀の如く、人格崇高が加はれば斧の如きものである、重厚にして崇高なる人格者は斧の重みで斬られると同じだ。」先輩や教授達又吾等の周囲の人々をこの目で觀察することも無駄ではあるまい。

(昭和九年学部卒、評議員)

校友名簿發刊について

母校七十周年記念事業の一環として左記の通り昭和三十年用校友名簿の刊行を予定し、銳意準備を進めております。

昭和二十八年用名簿發行後の校友各位の御異動(現住所、職業又は勤務先は役職も具体的に出来るだけ精しく)等御氣付の方はより良き名簿完成の為、御面倒乍ら左記宛御通知賜ります様御願ひ申上げます。

昭和二十九年十月十五日

大阪市大淀区長柄中道

關西大學校友會

記

- 一、規 格 B五判(學報型)
- 二、予定価格 金五百円也
- 三、収録人員 約二万七千人
- 四、内 容 氏名、出身府県、現住所、職業又は勤務先
- 五、発刊予定日 昭和三十年九月末

昭和二十九年十一月十五日發行

關西大學學報 第二七四號

大阪府大淀区長柄中道二丁目二番地

編集兼 久 井 忠 雄

大阪府北區川崎町三八

印刷所 株式会社 ナニワ 印刷所

電話堀川(三三〇二番)

大阪府大淀区長柄中道二丁目

發行所 關西大學學報局

電話堀川(35)一七五六番

振替大阪二六七七二番

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年記念拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸続左記の通り御寄附をいただきました。十月三十一日迄に拝受しました御寄附者の芳名を爰に録し、謹んで感謝の意を表します。

昭和二十九年十月

学校法人 關西大學

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名 (十)

昭和二十九年十月三十一日現在 (順序不同、敬称略)

一、關係業者の部 (才十回)

金五万円也 布屋 株式会社
 金参千円也 田中クリーニング店

計 金五万参千円也

累計 金六万九拾九万五百円也

二、校友の部

1. 地方支部

イ 東京支部 (才三回)

金五千円也 山本仲次郎(明40専) 法
 金壹千円也 榊島 明(昭15大) 法
 金壹千円也 垣田 八郎(昭3専) 法
 金壹千円也 丸物 彰(昭14専) 法

計 金八千円也

累計 金拾参万六千円也

ロ 関東支部 (才二回)

金壹万円也 阿部 正貫(昭8大) 法
 金壹万円也 田中 則親
 金五千円也 根津菊次郎(大15専) 商
 金五千円也 高野 時治(大3専) 法
 金参千円也 森尾 善一(昭11専) 商
 金参千円也 北福 壽一(昭10大) 法
 金参千円也 豊田 一枝(昭7大) 経

計 金八万四千円也

累計 金拾貳万四千円也

ハ 岡山支部 (才一回)

金貳万円也 神崎傳次郎(明42専) 法
 金壹万円也 井上 守三(大8専) 法
 金五千円也 平尾 利雄(昭11大) 政
 金参千円也 塩田方太郎(昭6専) 政
 金参千円也 山崎 通夫(昭17大) 法
 金貳千円也 寺尾賢三郎(大13専) 経
 金貳千円也 樋口 辰巳(大10専) 商
 金貳千円也 文谷 晴正(昭12専) 商
 金貳千円也 本郷 研
 金壹千五百円也 川上新太郎(昭17大) 法
 金壹千円也 犬飼 強(昭15専) 二
 金壹千円也 小坂 福雄(昭16大) 政
 金壹千円也 三輪 一郎(大14専) 商
 金壹千円也 完本 寛(昭6大) 法
 金壹千円也 藤原 勁(昭5大) 法
 金壹千円也 都志昌之助(昭10専) 一
 金壹千円也 森下 英一(昭10専) 二
 金壹千円也 武元 邦男(昭10専) 二
 金壹千円也 小野田一正(昭16大) 政
 金壹千円也 西 長市郎(大11専) 商
 金壹千円也 新名 武男(昭16専) 一
 金壹千円也 岸本龍太郎(昭15大) 法
 金壹千円也 若林 勇(昭16専) 二

計 金六万参千五百円也

ニ 和歌山支部 (才三回)

金壹千円也 登地佐太雄(昭19専) 二
 金壹千円也 木下 茂樹(昭26学) 二
 金貳千円也 吉照(昭23大) 法

計 金貳千円也

累計 金五万五千円也

ホ 福井支部 (才一回)

金壹万円也 内藤 哲応(大10専) 法
 金五千円也 小寺 藤作(昭2大) 法
 金壹千円也 千田 林作(昭4大) 法
 金壹千円也 大野 一雄(大7専) 法

計 金七拾貳万八千円也

累計 金七拾貳万八千円也

内藤 義臣(昭24大) 法
 八巻 龍学(昭13大) 哲
 宮田 一良(昭17大) 商
 乾 好晴
 御堂河内四市(昭5大) 法
 山口 俊男(昭13大) 法
 五十嵐 一榮(昭27学) 一
 長崎 芳雄(昭22大) 法
 中村 龍公(昭18大) 法
 中村 一男(昭25大) 経
 紅谷 貞彦(昭7大) 法
 牧村 真彦(昭7大) 法
 川上 種夫(昭21大) 法
 北山 清三(昭9専) 一
 堂垣内繁信(昭18大) 経

計 金参万壹千円也

ニ 福岡支部 (才二回)

金壹万円也 清原俊之助(大14専) 法
 金五千円也 玉置転留男(大13専) 経
 金五千円也 中村 敬直(大12専) 法

計 金貳万参千円也

累計 金貳万参千円也

ト 旭支部 (才一回)

金壹万円也 寺西 武(昭24大) 法
 金参千円也 篠原 昭三(昭25学) 一
 金壹千円也 川田 実(昭25学) 一

計 金壹万六千円也

累計 金五万五千円也

ニ 同期会 (才七回)

金五千円也 池田彌一郎
 金五千円也 柳沢 幸治
 金参千円也 溝辺 文和
 金壹千円也 池田彌一郎
 金七拾貳万八千円也 (布屋株式会社 才一、二回合計額)

計 金七拾貳万八千円也

累計 金七拾貳万八千円也

ロ 昭八会 (才三回)

金壹万円也 百石 義雄
 金五千円也 大川 三三
 金参千円也 橋本 秀雄

金貳千円也 野村 朝一

金壹千円也 武田 晴夫

金壹千円也 山下八郎男

金貳万貳千円也

金五拾万九千円也

計 金貳万貳千円也

計 金四拾七万五千円也

3. 同窓会

1. 関甲俱樂部 (才二回)

金貳万円也 山本 紀男(昭9 関 甲)

金壹万円也 島田 貞一(昭3 関 甲)

金壹万円也 長沢 健一(昭3 関 甲)

金壹万円也 津田 仁作(昭9 関 甲)

金七千円也 藤本栄治郎(大13 関 甲)

金五千円也 吉田 義一(大13 関 甲)

金五千円也 関山 正守(大15 関 甲)

金貳千円也 稻田 善助(大10 関 甲)

金貳千円也 猪師 猛(大13 関 甲)

金貳千円也 貴村 一雄(昭7 関 甲)

金壹万壹千円也 藤井 昭三

金八千円也 有福 健

金七千円也 上林 良一

金五千円也 原 輝次

金四千円也 宮田 正和

金四千円也 栗駒 貞和

金四千円也 西岡 貞雄

金三千円也 安橋 省三

金三千円也 森山 滋雄

金三千円也 篠原 昭三

金貳千円也 末政 正幸

金貳千円也 松井 信雄

金壹千円也 佐藤 修吾

金壹千円也 村田 正利

金壹千円也 松阪 章

金壹千円也 中谷 勝彦

金壹千円也 福尾 敏

金壹千円也 尺田 昭三

金壹千円也 谷沢 秀治

金壹千円也 名取 永一

金壹千円也 中井 崇史

金壹千円也 上東 秀雄

金壹千円也 亀井 孝明

金壹千円也 明松 優雄

金七万六千円也

4. クラブOB会

拳法部 (才二回)

金貳万参千円也 中村 定一(昭16 専二法)

計 金貳万参千円也

累計 金拾万五千円也

5. 個人

金壹万七千五百円也

松村源次郎(昭2 専 法)

金参千円也 北村 常雄(大15 大商)

金貳千円也 石田 公一(昭29 学 法)

金貳千円也 田中 光夫(昭29 学 商)

金貳千円也 河合 淳三(昭29 学 二商)

金貳千円也 村井 信一(昭12 専二法)

金貳千円也 田中 章二(昭26 専二法)

金貳千円也 森崎 義一(昭9 専 法)

金貳千円也 水間 通夫(昭16 大 法)

金壹千円也 井関孫太郎(大5 専 法)

金壹千円也 那須 久一(昭29 学 一法)

金壹千円也 中塩 明男(昭14 大 法)

金壹千円也 馬郡 玄吾(昭6 専 法)

金壹千円也 中野 文吉(昭16 大 政)

金壹千円也 岸本 和夫(昭28 学 経)

金壹千円也 内藤新九郎

金壹千円也 平川 直一

金壹千円也 前田 市藏

金八拾参万貳千円也

累計 金壹千五拾九万四百円也

三、教育後援会の部 (才十回)

金参万円也 村上 千藏

金参万円也 片川徳三郎

金参万円也 小橋 新二

金貳万参千円也 柏岡 精三

金壹万円也 赤土楨三郎

金壹万円也 吉原由太郎

金壹万円也 松原 俊男

金壹万円也 中川 富春

金壹万円也 金子 嘉藤

金壹万円也 河本 道雄

金壹万円也 山下石太郎

金五千円也 下地 亀松

金五千円也 高居 武雄

金参千円也 嘉納 壽司

金参千円也 萩田 孝儀

金参千円也 西村 寅一

金参千円也 森本 真吉

金参千円也 真田宇之助

金参千円也 町野重治郎

金参千円也 楠高 政雄

金参千円也 豊島 佐治

金参千円也 中川 清

金参千円也 岡田徳三郎

金参千円也 藤原 藤平

金参千円也 朝倉 新吾

金参千円也 岡田 二三

金参千円也 吉岡ハツエ

金貳千円也 岡田 勇吉

金貳千円也 原田 保

金貳千円也 松尾 清市

金貳千円也 具辻 義和

金貳千円也 中田 元市

金貳千円也 酒部 敏一

金貳千円也 吉野 彌藏

金貳千円也 砂川 秀雄

金貳千円也 吉村幸次郎

金貳千円也 日野 幸一

金貳千円也 津田 喬之

金貳千円也 田中 義治郎

金貳千円也 安藤 經太郎

金貳千円也 池沢 与藏

金貳千円也 水口 一雄

金貳千円也 木下 光司

金貳千円也 吉田 晋松

金貳千円也 吉田 太吉

金貳千円也 清原市太郎

金貳千円也 吉田 彌生

金貳千円也 野中 俊男

金貳千円也 西本 岩吉

金貳千円也 増田 清次

金貳千円也 織田 金次郎

金貳千円也 堀川 政市

金貳千円也 岡田友太郎

金貳千円也 荒木 重義

金貳千円也 玉木 勝哉

金貳千円也 藤本 磯太郎

金貳千円也 藤田 広太郎

金貳千円也 多田 進

金貳千円也 齊本 太郎

金貳千円也 三浦 御三

金貳千円也 金馬 清三

金貳千円也 三谷 義行

金貳千円也 村上よしえ

金貳千円也 岡田 春江

金貳千円也 中山 清太郎

金貳千円也 川尻 佐六

金貳千円也 谷田 孝太郎

金貳千円也 田中 好太郎

金貳千円也 引地 忠怒

關西大學創立七十周年記念 拡充資金募集趣意書

わが關西大學は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律學校として開校したのでありますが、爾來六十有余年校友先輩の苦心と不断的努力に依つて目覚ましい發展を遂げ、今や一万余千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大学園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、國家社會の進運に大きな寄与をなしたことは、われわれの深く喜びとするところであります。学園發展のためには、至極せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く獨立國家として出發しましたが、國家の前途は甚だ多難であります。わが國は今後、文化國家として世界文化に貢献すべきであります、またそれによつて友邦の信に應えなければなりません、そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本學は、大學の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声価を揚げて参りましたが、真理の討究、學の實化という理想に向つて、益々邁進したいと思ひます。本學が新學制に基き、各大學にさきがけて、大學院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において將來の飛躍的な發展を意圖したからに外なりません。

本學は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計畫を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大學院、大學ホール、経済学部 商学部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計畫中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山法政學舎の改築、二部學生を收容するための天六學舎の増築、學生に対する施設の一部として、千里山尚志館（學生食堂學友會部室）の増改築等でありますが、これらは逐次工事に着手し或は着手準備中であります。また教授研究室は、現在六十五室を有するに至つたのでありますが、その大部分は、臨時的なもので、更に近代設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には学園は全く面目を一新すると思ひます。

こうした外觀の整備と相俟つて、特に重要なものは、大學の眞価を決する教授陣容の充実にあります。二十八會計年度においては教授十名、助

教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相當額の増俸を実施致しました。しかしなお現下の經濟状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。教授陣容の充実に共に、研究用圖書の完備も大切であります。この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するものと考へられますが就中、學舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのでありますが、戦後の經濟的混亂により本大學法人の經理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず関係者各位その他の御援助により御辭出を仰がねばならぬ実情にあります。

大學の生命は不朽であります、学園の生々發展を希うためには、各位の学園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、学園の繁栄を念願する各位の御賛同を請ひ、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、学園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な發展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願ひ上げます。

昭和二十八年十一月

關西大學學長 岩 崎 卯 一
關西大學理事 白 川 朋 吉

創立七十周年記念事業學舎増改築概要

- 一、工事費總額約三億三千五百万円
- 二、工事概要
 - (一) 千里山法政學舎改築（鉄筋コンクリート造）
 - 三階建 二千六百六十八坪 工費約二億六千四百万円
 - 六學舎増築（鉄筋コンクリート造）
 - 五階建 三百七十八坪 工費約三千万円
 - (二) 千里山尚志館増改築（木造）二階建 三百二十一坪 工費約六百万円
 - (三) 關西大學第一高等學校の千里山外苑への移転新築（一・二階鉄筋三階木造）三階建 七百八十五坪 工費約三千五百万円

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名(第一~九回)

昭和廿九年九月三十日現在

一、篤志家の部

(才一回~九回)

金壹拾萬圓也	岸田 幸雄	金五萬七千五百圓也	匿名氏
金百參拾萬圓也	山銀硝子株式会社	金五萬圓也	吉川 淺吉
金百萬圓也	久大紡績株式会社	金五萬圓也	匿名氏
金百萬圓也	匿名氏	金四萬圓也	松田 某
金百萬圓也	匿名氏	金四萬圓也	堀畑 町一
金百萬圓也	匿名氏	金參萬圓也	匿名氏
金百萬圓也	匿名氏	金參萬圓也	匿名氏
金百萬圓也	匿名氏	金參萬圓也	後藤 桂
金百萬圓也	匿名氏	金參萬圓也	上村 二郎
金百拾萬圓也	青本興業株式会社	金參萬圓也	米田 三治
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	米谷 允利
金拾萬圓也	石原勝太郎	金貳萬圓也	富山 俊夫
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	牧野 武三
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	東田 繁雄
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	稻葉 之助
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	門田 文三
金拾萬圓也	匿名氏	金貳萬圓也	白井 利久
金拾萬圓也	藤本 政吉	金壹萬圓也	匿名氏
金拾萬圓也	下村 勝	金壹萬圓也	杉藤 弘
金拾萬圓也	塚田武四郎	金壹萬圓也	吉崎 照夫
金拾萬圓也	匿名氏	金壹萬圓也	三ツ橋 邦治郎

二、關係業者

(才一回~九回)

金壹萬圓也	松岡 一美	金貳拾萬圓也	佐伯 敬次(天六 學内賞)
金壹萬圓也	中村 武彦	金貳拾萬圓也	株式會社 大丸
金壹萬圓也	今西 某	金拾參萬參千五百圓也	丸善株式会社
金壹萬圓也	鳥野 繁太郎	金拾貳萬圓也	山下 常三郎
金壹萬圓也	鳥居 昇二郎	金拾壹萬壹千圓也	青泉 社
金壹萬圓也	匿名氏	金拾萬圓也	万年 社
金五千元也	井上 為之助	金拾萬圓也	住友銀行天六支店
金五千元也	岡野 弘毅	金拾萬圓也	泉州 銀行
金五千元也	不破 晴三郎	金拾萬圓也	三和 銀行天六支店
金五千元也	福井 鉄次郎	金七萬圓也	株式會社 ナニワ印刷所
金四千元也	小谷 正治	金五萬圓也	日本 機械工業株式会社
金參千元也	繩本 清太郎	金五萬圓也	昭和 電氣工業株式会社
金參千元也	三宅 八重	金參萬七千五百圓也	旭屋 書店
金貳千元也	阪本 政弘	金參萬圓也	日本 家具製造株式会社
金貳千元也	北原 朱 相 奎	金貳萬圓也	安田 信託銀行
金壹千元也	中西 忠雄	金貳萬圓也	佐々木 豊寫真館
金壹千元也	鳥居 觀之	金壹萬八千五百圓也	ヘルメス 通信工業株式会社
金壹千元也	大藤 松太郎	金壹萬八千圓也	美津 濃株式会社
金壹千元也	中辻 卯吉	金壹萬四千圓也	竹井 機器工業株式会社
金壹千元也	中江 秀実	金壹萬參千圓也	株式會社 青井 製版製作所
金壹千元也	泓川 義文	金壹萬圓也	日本 工業所
金壹千元也	木島 弘晴	金壹萬圓也	中島 印刷工場
金壹千元也	寺嶋 宗一郎	金壹萬圓也	株式會社 オーム 社書店
累計 金八百七拾九萬五千五百圓也		金壹萬圓也	塚田 印刷株式会社
		金六千元也	田口 産業株式会社
		金五千元也	久保 木村株式会社
		金五千元也	浜田 康
		金參千元也	大倉 山診療所
		金參千元也	丸榮 工業株式会社
		金貳千元也	清水 工業所
		金貳千元也	島村 圭藏
		金壹千元也	垣津 硝子店
		金壹千元也	渡辺 商店

金壹千円也 フロー1商會
 金壹千円也 高石 秀夫
 金壹千円也 躍 仙堂
 金壹千円也 株式会社山越製作所
 累計 金六百九拾參万七千五百円也

三、校友の部

〔一〕地方支部

(イ) 大阪支部 (才一三回)

金貳拾万円也 白川 朋吉
 金拾八万円也 久井 忠雄
 金拾万円也 岩崎 卯一
 金拾万円也 三好 万次
 金七万円也 矢野 文雄
 金七万円也 阿部 甚吉
 金五万円也 宇佐美正祐
 金五万円也 大石雄一郎
 金五万円也 樺本 信雄
 金五万円也 木村 健助
 金五万円也 武田藏之助
 金五万円也 中務 平吉
 金五万円也 長柄 金吾
 金五万円也 西尾専太郎
 金五万円也 西尾治三郎
 金五万円也 西本 寛一
 金五万円也 春原源太郎
 金五万円也 宮島 綱男
 金五万円也 森川 太郎
 金五万円也 下条小野石衛門
 金五万円也 桂 忠雄
 金五万円也 前田 軍治
 金五万円也 池田信之助
 金五万円也 尾崎 信夫
 金參万円也 神屋敷民藏
 金貳万五千円也 安井 章吾

金貳万円也 大島 武夫
 金貳万円也 坂本 龍夫
 金貳万円也 関 豊馬
 金貳万円也 田中 一郎
 金貳万円也 多賀谷 宏
 金貳万円也 村尾 三朗
 金貳万円也 保井 静明
 金貳万円也 丸山喜三造
 金貳万円也 大月 伸
 金壹万五千円也 三島 律夫
 金壹万五千円也 四辻 詮
 金壹万円也 今里 達雄
 金壹万円也 梅原貞次郎
 金壹万円也 海野 円城
 金壹万円也 岡本 重治
 金壹万円也 織田佐代治
 金壹万円也 北原 元茂
 金壹万円也 中村 公男
 金壹万円也 長谷川清一
 金壹万円也 松本芳太郎
 金壹万円也 藤下 善雄
 金壹万円也 八木万太郎
 金壹万円也 大和 英雄
 金壹万円也 和田 傳三
 金壹万円也 秋山 剛
 金壹万円也 富永 竹夫
 金壹万円也 江里口春志
 金壹万円也 柳田 榮次
 金壹万円也 岸本 芳夫
 金壹万円也 辻見 彦一
 金五千円也 野田 文雄
 金五千円也 橋田 豊吉
 金五千円也 山影 耕作
 金五千円也 毛尾 泰三
 金五千円也 神吉 等
 金五千円也 金田 雅一

累計 金貳百八万四千円也

(ロ) 川辺支部 (才一四回)

金五万円也 小林 英次
 金貳万五千円也 深川 実
 金貳万円也 安井 章吾
 金貳万円也 吉永 登
 金壹万円也 滝井 義男
 金壹万円也 池田幸太郎
 金壹万円也 深川 重義
 金壹万円也 北川喜八郎
 金壹万円也 藤原 龍太
 金壹万円也 寺浦留三郎
 金五千円也 谷口 信一
 金五千円也 山口 隆佳
 金五千円也 亥野 貞吉
 金五千円也 甲川 貞吉
 金五千円也 磯野 充賀
 金参千円也 中村 敏雄

累計 金貳拾參万壹千円也

(ハ) 神戸支部 (才一三回)

金壹万封 岸田 幸雄
 金参万円也 原田鹿太郎
 金参万円也 山崎 敬義
 金参万円也 難波 敬方
 金壹万円也 橋本 太一
 金壹万円也 水本 信夫
 金壹万円也 森 又雄
 金壹万円也 土井 龍弘
 金壹万円也 東耕 龍男
 金壹万円也 向井 祐亮
 金壹万円也 角田好太郎
 金七千円也 安井 榮三
 金五千円也 岡田 退一
 金五千円也 山本 春治
 金五千円也 水本千代松
 金四千円也 小谷 正治
 金四千円也 尾形 旨正
 金参千円也 片山 勝
 金参千円也 木内 博
 金参千円也 中藤幸太郎
 金参千円也 西光 健次
 金参千円也 田中 健次
 金貳千円也 渡辺 道男

金貳千円也 田口 正春
 金貳千円也 倉橋 貞一
 金貳千円也 武田 謙
 金貳千円也 富川竹治郎
 金貳千円也 松島 章
 金壹千円也 伴 勇
 金壹千円也 井上 久平
 金壹千円也 長田 千里
 金壹千円也 松崎 友一
 金壹千円也 中平 忠
 金壹千円也 今仲 美巳
 金壹千円也 井上 精一

金壹万円也 岡本 勲治
金壹万円也 内田 重成
計 金四万円也

(方) 徳島支部 (才一・二回)

金壹万円也 三宅 二郎
金壹万円也 齊藤 正美
金五千元也 中田 豊雄
金貳千元也 幸田 秀明
金壹千元也 小川 崇
金壹千元也 倉橋 巖二
金壹千元也 増原 市次
金壹千元也 林 豊
金壹千元也 千草 信男
金壹千元也 間宮与四郎

累計 金參万參千元也

(三) 吳支部 (才一回)

金壹千元也 長尾 幸治
金壹千元也 水落 元一
金壹千元也 坂井 讓
金壹千元也 東 正実
金壹千元也 熊田 潔
金壹千元也 下原 太郎
金壹千元也 淺野 純一
金壹千元也 藤野 肇
金壹千元也 上開地政夫
金壹千元也 野村 壽
金壹千元也 山本 実
金壹千元也 山本 幸男
金壹千元也 清水 篤夫
金壹千元也 山本 昌雄
金壹千元也 鈴木 剛
金壹千元也 厚井 陽道
計 金壹万六千元也
(夕) 鳥取支部 (才一回)
金壹万円也 真沢 澄

(レ) 香川支部 (才一回)
金壹万円也 馬場 五男
計 金壹万円也

(ソ) 福島支部 (才一回)

金壹万円也 山田 俊治
計 金壹万円也

(ツ) 豊中支部 (才一回)

金壹万円也 安富 敬作
計 金壹万円也

(ホ) 福岡支部 (才一回)

金參千元也 鮫島 正弘
計 金參千元也

累計 金參百四拾參万五千元也

[2] 職域会

(イ) 朝日新聞社同大会

金壹万五千元也 近藤 政士
金壹万円也 吉田三七雄
金壹万円也 石渡 俊一
金壹万円也 松葉徳三郎
金參千元也 角谷市太郎
金參千元也 新海 泰三
金參千元也 酒井鶴之助
金參千元也 原田 正男
金貳千元也 坂井佐佳士
金貳千元也 甘野秀太郎
金貳千元也 徳井 悦郎
金壹千元也 沢田 苞
金壹千元也 安達 富夫
金壹千元也 近藤 忠二
金壹千元也 山崎福太郎
金壹千元也 成川 政雄
金壹千元也 脇 昭成
金壹千元也 小寺 和男

金壹千元也 龍田 弘
金壹千元也 鎌田 務
金壹千元也 間石 義一
金壹千元也 佐藤 正隆
金壹千元也 八木 覚雄
金壹千元也 三浦 初男
金壹千元也 平井 一郎
金壹千元也 大橋 秀夫
金壹千元也 明石 一郎
金壹千元也 国府寺 展美
金壹千元也 藤井 鶴雄
金壹千元也 宮本 恒夫
金壹千元也 宮原 美雄
金壹千元也 南村 政春
金壹千元也 木村佐喜夫
金壹千元也 坂本 三郎
金壹千元也 今川 美夫
金壹千元也 兼永 政利
金壹千元也 近藤晋一郎
金壹千元也 弘末 政彦
金壹千元也 北本 誠一
金壹千元也 仲 利博
金壹千元也 平手龍之助
金壹千元也 西川 新造
金壹千元也 神野 宣信
金壹千元也 野村 正辰
金壹千元也 西田 市一

(ロ) 毎日新聞社同大会

金拾万円也
計 金拾万円也

(ハ) 兵庫県庁秀麗会

金五万円也
計 金五万円也

(ニ) 十合関大会

金貳万円也 木原 繁実
金五千元也 菅原 一夫

(ホ) 鐘秀会 (鐘紡同大会)

金參万円也
計 金參万円也

(ヘ) 大阪機械製作所同窓会

金壹万円也
計 金壹万円也

(ト) 近鉄百貨店同大会

金五千元也
計 金五千元也

(チ) 近鉄同大会 (才一・三回)

金壹千元也 中沢 俊雄
金壹千元也 増田 正一
金壹千元也 西村 末昭
金壹千元也 青山 利一
累計 金四千元也

(リ) 農林省大阪食糧事務所同大会

金參千元也
計 金參千元也
累計 金參拾四万五千元也

【3】同期会

(4) 昭六会

(才一六回)

金拾八万円也	久井 忠雄
金参万円也	佐伯 三郎
金貳万円也	長尾 昇
金貳万円也	嘉根 勘治
金貳万円也	齊藤 善三
金貳万円也	古田 龍雄
金貳万円也	拜野 昇
金壹万参千円也	有賀 司郎
金壹万円也	堀畑 町一
金壹万円也	鳴尾 芳太郎
金壹万円也	白川 恵宜
金壹万円也	寺田 伴嗣
金壹万円也	楠井 文雄
金壹万円也	神木 彦次郎
金壹万円也	藤井 兵藏
金壹万円也	今井 憲夫
金壹万円也	三谷 久男
金壹万円也	岡部 俊吾
金壹万円也	福原 菊次郎
金壹万円也	門田 文三
金壹万円也	浅本 俊一
金壹万円也	喜多 由造
金壹万円也	朝倉 茂直
金壹万円也	川上 末一
金壹万円也	中村 武一
金壹万円也	中谷 勝
金壹万円也	吉川 敬一
金壹万円也	上野 俊彦
金壹万円也	日下 康夫
金壹万円也	羽生 忠
金壹万円也	清水 安義
金壹万円也	吉橋 鐸美
金壹万円也	西口 権四郎
金壹万円也	入江 寅一

累計 金六拾六万五千円也

金五千円也	羽淵 智博
金五千円也	川越 淳
金五千円也	中辻 昌平
金五千円也	青野 武郎
金五千円也	奥川 三郎
金五千円也	武治 順造
金五千円也	川西 武治
金五千円也	梶田 幸重
金五千円也	後藤 信夫
金五千円也	笠井 菊雄
金五千円也	糸山 喜道
金五千円也	谷真 寅雄
金五千円也	足立 長策
金五千円也	道端 喜道
金五千円也	西野 富藏
金五千円也	田中 俊一
金参千円也	井口 一
金壹千円也	増原 市次
金壹万円也	松野 幸吉
金貳万円也	大島 武夫
金貳万円也	浦野 健二郎
金貳万円也	荒川 虎一郎
金貳万円也	賀本 敏英
金貳万円也	山内 喜一郎
金貳万円也	平井 三朗
金貳万円也	岡本 健吉
金貳万円也	木下 忠夫
金壹万円也	宮脇 恒三郎
金壹万円也	多賀 義臣
金壹万円也	中江 巽
金壹万円也	美吉 克之祐
金壹万円也	長沢 健一
金壹万円也	平井 孝道
金壹万円也	真沢 澄

(口) 昭八会

(才一二回)

金壹万円也	中家 利国
金壹万円也	松谷 光広
金壹万円也	岩橋 清
金壹万円也	宮地 正一
金壹万円也	住江 敏夫
金壹万円也	阿部 正貫
金壹万円也	岡沢 卓郎
金壹万円也	田中 隆三
金壹万円也	藤本 順二郎
金壹万円也	藤川 健治
金壹万円也	北元 正勝
金壹万円也	三谷 幾太郎
金壹万円也	西田 春造
金壹万円也	藤岡 勇
金五千円也	野田 文雄
金五千円也	稻穂 重夫
金五千円也	尾下 省三
金五千円也	結城 丙太
金五千円也	森景 京一
金五千円也	江上 春雄
金五千円也	重盛 弘志
金五千円也	鈴木 角治
金五千円也	中村 克己
金五千円也	高橋 重男
金五千円也	徳弘 新吉
金五千円也	田淵 駒雄
金五千円也	辻本 三郎
金五千円也	一瀬 誠三
金五千円也	山下 義次
金五千円也	飯田 善雄
金五千円也	馬島 朝治
金五千円也	東野 邦宣
金五千円也	伊藤 清太郎
金五千円也	伊藤 浅夫
金五千円也	齋藤 正興

累計 金五拾参万七千円也

金貳千円也	竹歳 辰造
金貳千円也	小田 切西
金貳千円也	森田 隆三
金貳千円也	瀬郷 清市
金貳千円也	芝崎 米男
金貳千円也	浅野 三郎
金貳千円也	奥西 茂樹
金貳千円也	広田 信
金貳千円也	浜田 実
金貳千円也	北藤 秀忠
金貳千円也	池田 仙太郎
金貳千円也	山下 秀義
金貳千円也	前坂 健吉
金貳千円也	大西 克己
金壹千円也	池川 浩
金壹千円也	和田 信藏
金壹千円也	小阪 喜一
金壹千円也	伊知地 一
金壹千円也	坂上 五良
金壹千円也	太田 幸一
金拾万円也	野間 秀泉
金七万円也	矢野 文雄
金貳万円也	福岡 彰郎
金貳万円也	東珍 頼義
金壹万円也	榎本 金次郎
金壹万円也	江里 昌志
金壹万円也	河内 泰三
金壹万円也	田中 壽藏
金壹万円也	竹沢 喜代治
金壹万円也	塚本 義昭
金壹万円也	長谷川 清一
金壹万円也	松谷 連哉
金壹万円也	森下 善雄

(六) 十期会

(才一六回)

金壹万円也 柳田 栄次
 金壹万円也 山中 輝司
 金壹万円也 永井 芳一
 金壹万円也 河合 中
 金壹万円也 北川喜八郎
 金壹万円也 森 衿次
 金壹万円也 中山 誠
 金壹万円也 千原 清治
 金壹万円也 川澄 秋一
 金壹万円也 高久 直信
 金壹万円也 荻野 武男
 金五千元也 糸田川信勝
 金五千元也 白柳丈太郎
 金五千元也 戸田 清一
 金五千元也 荳島 栄
 金五千元也 岡田 退一
 金五千元也 前田 静夫
 金五千元也 平尾 正雄
 金五千元也 岸井源治郎
 金五千元也 浅野 時男
 金参千元也 阿作 修
 金壹千元也 小山

累計 金四拾六万貳千円也

(一) 昭七会 (才一・二回)
 金五万円也 春原源太郎
 金五万円也 西尾専太郎
 金貳万五千元也 戸根 泰雄
 金貳万円也 米田 恒治
 金貳万円也 越智比古市
 金貳万円也 藤原 忠義
 金貳万円也 丸山喜三造
 金貳万円也 藤山 昇
 金貳万円也 永田菊次郎
 金貳万円也 井元 拙夫
 金貳万円也 東田 博雄
 金貳万円也 玉中 啓一
 金貳万円也 岩佐清三郎

金壹万円也 吉木 由雄
 金壹万円也 関師 親徳
 金五千元也 前田 滝造
 金参千元也 武田 太七
 金参千元也 岸井 八東
 金参千元也 行俊 喬
 金参千元也 市川 尙文
 金壹千元也 谷口奈良男
 金壹千元也 竹内幸一郎
 金壹千元也 高橋 良美
 金壹千元也 益田 寅男

累計 金参拾六万八千円也

(ホ) 昭三会 (才一回)
 金拾万円也 松広 壽衛
 金貳万円也 尾崎 信夫
 金貳万円也 小寺小市郎
 金貳万円也 木下 虎一
 金壹万円也 南 清
 金壹万円也 伊藤 喜造
 金壹万円也 丸藤 太平

累計 金貳拾万円也

(ハ) 昭四斯文会 (才一・二回)
 金参万円也 池田信之助
 金貳万五千元也 神屋敷民藏
 金壹万円也 安井 章吾
 金壹万円也 和田 傳三
 金壹万円也 川野 文也
 金五千元也 米満 栄三

累計 金拾壹万円也

(下) 昭三会 (才一・二回)
 金五万円也 下条小野右衛門
 金参万円也 原田鹿太郎
 金壹万円也 滝川 堯

累計 金九万円也

(才) 三七会 (才一回)
 金貳万円也 内藤 正剛

金貳万円也 村尾 静明
 金壹万円也 深川 重義
 金壹万円也 兼松謙太郎
 金壹万円也 豊岡 正芳
 金五千元也 藤高 豊作
 金参千元也 上田 実
 金壹千元也 田中三喜藏
 金壹千元也 赤坂 惠龍

累計 金七万八千円也

(イ) 双龍会(昭十四専卒)(才一回)
 金壹万円也 坂本 龍夫
 金壹万円也 今里 達雄
 金五千元也 弓場 晴男
 金貳千元也 井上 隆
 金貳千元也 辻 忠勝
 金貳千元也 波田野福雄
 金貳千元也 榑原 良尙
 金貳千元也 山崎孝三郎
 金壹千元也 久保田 弘
 金壹千元也 馬川喜久三
 金壹千元也 安部 彰一
 金壹千元也 小松 邦男
 金壹千元也 田山 久美
 金壹千元也 丸尾 実
 金壹千元也 早助 芳一
 金壹千元也 石田 俊夫
 金壹千元也 平田 光男

累計 金五万四千円也

(又) 昭十一年卒 (才一回)
 金貳万円也 木原 繁実
 金壹万円也 澁川 鶴藏
 金参千元也 辻本 修
 金参千元也 大野 茂
 金参千元也 森本 隆男
 金参千元也 大谷 盛広

計 四万貳千円也

(ル) 大三会 (才一回)
 金壹万円也 松本芳太郎
 金壹万円也 富田 貞雄
 金五千元也 島 良司
 金参千元也 佐古 信三
 金壹千元也 萩野 義正
 金壹千元也 渡辺 政一
 金壹千元也 杉本 治作

累計 金参万八千円也

計 金参万八千円也
 累計 金貳百六拾参万五百円也

【4】 其の他の団体

(イ) 関大一高父兄会
 金百万六百四拾四円也 一高父兄会
 金七万円也 阿部 甚吉
 金五万円也 植田 安吉
 金五万円也 下条小野右衛門
 金五万円也 中田 昌義
 金参万円也 長沢喜代一
 金参万円也 植田 弘
 金貳万円也 隈名 氏
 金貳万円也 植田惣次郎
 金貳万円也 豆谷兵四郎
 金貳万円也 大月勝治郎
 金貳万円也 上田 修三
 金貳万円也 白井 清吉
 金貳万円也 十川 忠義
 金貳万円也 奥田玉三郎
 金貳万円也 宇津呂義雄
 金貳万円也 小林 君次
 金貳万円也 高久 直信

金壹萬円也 杉田 實
 金壹萬円也 山田 來
 金壹萬円也 尼崎愛之助
 金壹萬円也 森垣賢一
 金壹萬円也 岡村幸次郎
 金壹萬円也 坂東政次郎
 金壹萬円也 土川 清
 金壹萬円也 浅井 清市
 金壹萬円也 山口 俊作
 金壹萬円也 前田 順治
 金壹萬円也 大谷泰治郎
 金壹萬円也 若見 好清
 金壹萬円也 土肥芳左衛門
 金壹萬円也 伊東 順一
 金壹萬円也 井内彌三郎
 金壹萬円也 木本 直吉
 金壹萬円也 井那 新吉
 金壹萬円也 谷口 庄吉
 金壹萬円也 山田佐一郎
 金壹萬円也 森 時雄
 金壹萬円也 三浦 三郎
 金壹萬円也 白石 市郎
 金壹萬円也 上岡 多藏
 金壹萬円也 赤土橋三郎
 金壹萬円也 芥田 武夫
 金壹萬円也 相原 岩藏
 金壹萬円也 細馬与市郎
 金壹萬円也 下雅意亀吉
 金壹萬円也 大石 雅昭
 金壹萬円也 井上 千明
 金壹萬円也 磯田 繁次
 金壹萬円也 山口 正義
 金壹萬円也 荒木巳之助
 金壹萬円也 渡野 誠一
 金壹萬円也 野村 哲治
 金壹萬円也 高橋 節治
 金壹萬円也 牧野彌三郎

金壹萬円也 飯田喜代治
 金壹萬円也 田辺 徳一
 金壹萬円也 荒木 義彰
 金壹萬円也 尾沢 順一
 金壹萬円也 西川 謙三
 金壹萬円也 文珠祐三郎
 金壹萬円也 津田 仁作
 金壹萬円也 土井 竹男
 金壹萬円也 北村 彌八
 金壹萬円也 吉田 徳治
 金壹萬円也 外島 行雄
 金壹萬円也 山口 修次
 金壹萬円也 山田 重治
 金壹萬円也 辻 武三
 金壹萬円也 花田定太郎
 金壹萬円也 貴島 辰雄
 金壹萬円也 荒川 淑人
 金壹萬円也 匿名 氏
 金壹萬円也 藤森 贊樹
 金壹萬円也 塚田 義則
 金壹萬円也 松原 俊男
 金壹萬円也 東川 末松
 金壹萬円也 飯尾 岩吉
 金壹萬円也 片山 亀吉
 金壹萬円也 出原 一藏
 金壹萬円也 脇田權治郎
 金壹萬円也 塩見徳太郎
 金壹萬円也 佐々木善右衛門
 金壹萬円也 平井 慶藏
 金壹萬円也 園枝 よう
 金壹萬円也 中田 正道
 金壹萬円也 西 僧一
 金壹萬円也 野村 忠敬
 金壹萬円也 奈良 三郎
 金壹萬円也 木下 金助
 金壹萬円也 多井 憲次郎
 金壹萬円也 吉田 八郎

金壹萬円也 鎌田源太郎
 金壹萬円也 高山 常吉
 金壹萬円也 森 忠三郎
 金壹萬円也 岸本 光治
 金壹萬円也 久保田嘉太郎
 金壹萬円也 吉田 彌生
 金壹萬円也 竹中 昇
 金壹萬円也 桑原 政一
 金壹萬円也 荒木 雄治
 金壹萬円也 角家虎三郎
 金壹萬円也 大垣国太郎
 金壹萬円也 北村 健藏
 金壹萬円也 中山 右次
 金壹萬円也 後田 春夫
 金壹萬円也 清水 良祐
 金壹萬円也 豊後昇太郎
 金壹萬円也 松下繁太郎
 金壹萬円也 中本三壽郎
 金壹萬円也 岩田 三二
 金壹萬円也 千葉 胤嗣
 金壹萬円也 毛利 喬良
 金壹萬円也 田端 義一
 金壹萬円也 三枝 八郎
 金壹萬円也 河野 重一
 金壹萬円也 中藏 公夫
 金壹萬円也 吉田長三郎
 金壹萬円也 石倉勇三郎
 金壹萬円也 中井 信治
 金壹萬円也 土屋 一雄
 金壹萬円也 細川 豊次
 金壹萬円也 杉原 義春
 金壹萬円也 林 トリエ
 金壹萬円也 田中 示
 金壹萬円也 沖村 克巳
 金壹萬円也 田村清太郎
 金壹萬円也 土江 信郎
 金壹萬円也 山田 義秀
 金壹萬円也 小松 義秀

金壹萬円也 石倉 虎市
 金壹萬円也 近藤 貞
 金壹萬円也 古山 宇一
 金壹萬円也 後藤 利男
 金壹萬円也 宮崎 茂雄
 金壹萬円也 羽野 武夫
 金壹萬円也 油野 喜道
 金壹萬円也 好井 喜八郎
 金壹萬円也 青木喜八郎
 金壹萬円也 小原 廉平
 金壹萬円也 河原 秋治
 金壹萬円也 生田 利満
 金壹萬円也 浦田 与一
 金壹萬円也 佐伯 駒雄
 金壹萬円也 井上 五郎
 金壹萬円也 井田 春夫
 金壹萬円也 錫矢 志賀
 金壹萬円也 前田 政常
 金壹萬円也 金卷 千円也
 金壹萬円也 金卷 千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬円也 金參千円也
 金壹萬五千円也 三島 律夫
 金壹萬五千円也 木戸 一郎
 金壹萬円也 北川 保
 金壹萬円也 北川 喜八郎
 金壹萬円也 園田 栄一
 金壹萬円也 小林 順藏

累計 金貳百七拾九万六千四百四十四円也
 (口) 関甲俱樂部 (才一画)

金壹万円也 園分 吉広
 金壹万円也 那 柴作
 金壹万円也 鈴木 正男
 金壹万円也 高橋 節治
 金壹万円也 東耕 龍男
 金壹万円也 奈須野一郎
 金壹万円也 福原菊治郎
 金壹万円也 古市 実
 金壹万円也 山口 重治
 金壹万円也 山口 繁雄
 金壹万円也 吉田 八郎
 金壹万円也 浅野 泰秀
 金五千元也 神吉 等
 金五千元也 中村敏治郎
 金五千元也 藤本栄次郎
 金五千元也 山中 林三
 金五千元也 好井 喜道
 金四千元也 西岡 宸
 金四千元也 岩田 利男
 金参千元也 桑原 正安
 金参千元也 小枝 康益
 金参千元也 小栗崎邦夫
 金参千元也 杉江 弘臣
 金参千元也 巽 正男
 金参千元也 高橋 猛
 金参千元也 西川 静治
 金参千元也 山本 義雄
 金参千元也 吉富 三郎
 金参千元也 井上 二郎
 金参千元也 木村 昌三
 金参千元也 広谷 七郎
 金参千元也 松本喜代松
 金参千元也 森下 清
 金参千元也 山本 富和
 金参千元也 山本 和夫
 計 六拾六万八千元也
 (一) 関大二商同窓会 (才一回)
 金五万円也 長柄 金吾

金参万円也 前田 軍治
 金貳万円也 丸山喜三造
 金貳万円也 福岡 彰郎
 金壹万円也 大谷 辰造
 金壹万円也 河内 兼三
 金壹万円也 森 裕次
 金壹万円也 政井 武
 金壹万円也 安田 信一
 金五千元也 岡田 退一
 金四千元也 長谷川雅樹
 金貳千元也 木島 倫三
 金参千元也 藤野 春三
 金参千元也 高橋 文恵
 計 金拾八万参千元也
 (二) 拳法部OB会 (才一回)
 金七万円也 矢野 文雄
 金貳万円也 多賀谷 宏
 金壹万五千五百円也 中村 定二
 金壹万円也 山脇 智
 金壹万円也 秋山 剛
 金五千元也 辻見 重行
 金五千元也 酒井 彦一
 金五千元也 毛尾 泰三
 金五千元也 柏原 保祐
 金壹千元也 森 正十之
 金壹千元也 横田 幸俊
 計 金拾四万七千五百円也
 (三) 馬 衛部
 金拾万円也
 (四) スキー部OB会 (才一回)
 金五万円也 大石雄一郎
 金参万円也 鶴田 武
 金五千元也 浅野 泰秀
 金五千元也 口村 正二
 金貳千元也 中野 礼次

金壹千元也 福本 基治
 金壹千元也 鶴田 祐一
 金壹千元也 稻石 鉄男
 計 金九万貳千元也
 累計 金参百九拾八万壹千四百四拾四円也
 [4] 個 人 (才一五回)
 金拾五万円也 五井 重一(昭15專 英)
 金五万円也 内田 茂(昭2大 商)
 金貳万円也 田中 藤作(昭10專 法)
 金貳万円也 原田善之助(昭25大 法)
 金貳万円也 高浜宇佐吉(昭15專 法)
 金貳万円也 松村源次郎(昭2專 法)
 金壹万五千円也 乾 義雄(昭6專 法)
 金壹万円也 郡 彰(昭28專 経)
 金壹万円也 藤井 昭三(昭27院 法)
 金壹万円也 泉 順一(昭26專 二法)
 金壹万円也 松本 実道(昭3專 文)
 金壹万円也 福原 武一(昭2專 法)
 金壹万円也 森 一郎(昭8專 商)
 金壹万円也 犬飼 次郎(昭14大 法)
 金壹万円也 森田 壽(昭15大 法)
 金壹万円也 東 栄(昭8專 法)
 金壹万円也 銀島 万作(昭3專 法)
 金壹万円也 道工 隆三(昭2專 法)
 金壹万円也 田中 義一(昭15大 商)
 金壹万円也 谷口 隆佳(昭15大 法)
 金五千元也 新井忠二郎(昭19大 法)
 金五千元也 大谷 松次(昭11大 政)
 金五千元也 木村 与吉(昭8專 法)
 金五千元也 仁尾 常壽(昭4專 法)
 金五千元也 宮光 永明(昭26專 一法)
 金五千元也 天野 誠一(昭22大 経)
 金五千元也 長瀬万壽治(昭5專 法)
 金五千元也 栗本、義重(昭11大 政)
 金五千元也 棚野 誠幸(昭16大 法)
 金五千元也 中本 勇(昭12專 二法)
 金五千元也 野村 敬夫(昭12專 法)
 金五千元也 中務 健治(昭15專 二商)
 金五千元也 山口多賀藏(昭5 大法)
 金五千元也 真藤 金正(昭9 専法)
 金五千元也 蓮藤 吉次(昭7專 法)
 金五千元也 小山 幸男(昭10大 法)
 金五千元也 川端 輝(昭16專 法)
 金五千元也 高砂恒三郎(昭13專 法)
 金五千元也 西浦 義一(昭10專 二法)
 金五千元也 村西 修(昭27專 一経)
 金五千元也 芦田 慶三(昭26專 二商)
 金五千元也 武田 正一(昭24大 経)
 金五千元也 山本 行平(昭15大 経)
 金五千元也 山田 壽男(昭10專 法)
 金五千元也 今井 勝(昭5專 法)
 金五千元也 小川 昌文(昭23大 経)
 金五千元也 寺島 宗孝(昭28專 一経)
 金五千元也 西田 一郎(昭28專 一経)
 金五千元也 松井 英雄(昭29專 一経)
 金五千元也 中島 利夫(昭18專 一商)
 金五千元也 柳原 豊一(昭25專 一法)
 金五千元也 北村 常雄(昭15大 商)
 金五千元也 竹内 鶴(昭15專 法)
 金五千元也 岩見 実(昭14專 二法)
 金五千元也 村田俊一郎(昭26專 一商)
 金五千元也 峰本 勝義(昭25專 一経)
 金五千元也 片岡 公明(昭17大 政)
 金五千元也 中村彌之助(昭13專 一商)
 金五千元也 西村 一幸(昭21大 法)
 金五千元也 福田 敏夫(昭12大 政)
 金五千元也 木島 倫三(昭5專 一商)
 金五千元也 羽間 平安(昭27專 一政)
 金五千元也 葛川 毅(昭21大 法)
 金五千元也 青野 豊(昭28專 一法)
 金五千元也 宇治喜三郎(昭5專 二法)
 金五千元也 橋田 義明(昭29專 一商)

金式千円也	岡田芳太郎(昭26專二商)	金壹千円也	喜照(昭23大經)	金壹千円也	河内啓三(昭17大商)	金壹千円也	森本守夫(昭16專二法)
金式千円也	長島潔(昭11大商)	金壹千円也	大和宗一(昭29專二法)	金壹千円也	鈴置正雄(昭19大政)	金壹千円也	高山重則(昭28專一經)
金壹千円也	因野昭(昭22專二商)	金壹千円也	長尾正弘(昭12大法)	金壹千円也	加藤常雄(昭10專二商)	金壹千円也	平田安男(昭10專二法)
金壹千円也	安西一郎(昭25專一團)	金壹千円也	仲實(昭12大法)	金壹千円也	木原俊夫(昭18專商)	金壹千円也	二見辰二(昭2專法)
金壹千円也	北村學(昭14專二團)	金壹千円也	津川鑑一(昭6專經)	金壹千円也	山本晴雄(昭27專二商)	金壹千円也	足立浩一(昭13大法)
金壹千円也	石丸豊(大9專商)	金壹千円也	野村剛(昭26專二法)	金壹千円也	半那賢三(昭17專一經)	金壹千円也	松下權一(昭13大法)
金壹千円也	龍夫(昭26專一團)	金壹千円也	井上義雄(大12大法)	金壹千円也	鯨子由榮郎(昭5大法)	金壹千円也	上田節三(昭25專二法)
金壹千円也	大越務(昭37法)	金壹千円也	立花浩(昭13專二商)	金壹千円也	松村昌一(昭12專二商)	金壹千円也	重松利喜久(昭27專二商)
金壹千円也	廣橋正一(昭26專一法)	金壹千円也	中富又次(昭26專一經)	金壹千円也	小西公彦(昭22大法)	金壹千円也	久保川顯一(昭22專一商)
金壹千円也	深田丈夫(昭41大法)	金壹千円也	野沢正治(昭8專二商)	金壹千円也	植田秀雄(昭19大法)	金壹千円也	岡田浩二(昭26專一經)
金壹千円也	松川孟一(大11專法)	金壹千円也	久保田欣司(昭16大法)	金壹千円也	岸本忠雄(大13專商)	金壹千円也	阪口篤美(昭27專二商)
金壹千円也	高林鳳(昭25專一法)	金壹千円也	清水喜美(昭28專一經)	金壹千円也	廣野正千代(昭28專二法)	金壹千円也	原田統吉(昭21大經)
金壹千円也	高橋文惠(昭8專二法)	金壹千円也	高瀬善方(昭25專二商)	金壹千円也	島田信一(昭5大經)	金壹千円也	山本明(昭21大法)
金壹千円也	小田静男(昭16專二法)	金壹千円也	高橋孝男(昭25專一法)	金壹千円也	一瀬泰男(昭28專一商)	金壹千円也	東口明(昭21大法)
金壹千円也	原田市之進(昭39法)	金壹千円也	相見勉(昭18大法)	金壹千円也	田中実夫(昭8專二法)	金壹千円也	井上太啓止(昭24專二商)
金壹千円也	不動健治(大9專商)	金壹千円也	脇本大吉(大12專法)	金壹千円也	中山一義(昭13專二法)	金壹千円也	山口健治(大15專法)
金壹千円也	村岡道久(昭18專二法)	金壹千円也	和久田二郎(昭16大經)	金壹千円也	大笹勝美(昭13專二商)	金壹千円也	辰巳良勝(昭20大法)
金壹千円也	野口茂樹(昭4大法)	金壹千円也	住岡藤一(昭14專二經)	金壹千円也	芝田政治(昭44專法)	金壹千円也	野村物次(昭22專二法)
金壹千円也	吉田孝藏(昭27專二法)	金壹千円也	楠田寅三(昭5專法)	金壹千円也	中井利明(昭26專二商)	金壹千円也	山下与太郎(昭6專法)
金壹千円也	平田榮一郎(昭10專二法)	金壹千円也	中尾宣雄(昭12大經)	金壹千円也	喜多芳明(昭21專二商)	金壹千円也	今西利章(昭20專二法)
金壹千円也	栗木原匡一(昭24大經)	金壹千円也	山脇修(昭18專經)	金壹千円也	寺西三郎(昭27專一法)	金壹千円也	葦野柳男(昭22專二法)
金壹千円也	尾上圭一(昭16專二經)	金壹千円也	後藤正身(昭10大政)	金壹千円也	上田義雄(昭23專二商)	金壹千円也	角所紀(昭26專一政)
金壹千円也	金谷信助(昭27專一經)	金壹千円也	原田美都枝(昭18專二商)	金壹千円也	小林英隆(大7大法)	金壹千円也	畑中信次(昭2專法)
金壹千円也	辻茂(大13專二商)	金壹千円也	小倉喜八郎(昭18專二商)	金壹千円也	筒井英男(昭13專二商)	金壹千円也	長柄英佐子(昭29專一商)
金壹千円也	東田憲二(大14大法)	金壹千円也	今仲三木雄(昭16專二商)	金壹千円也	中井英三(昭2專法)	金壹千円也	藤井武(昭13專二經)
金壹千円也	植田翁雄(昭16專二法)	金壹千円也	八木富三(昭2專法)	金壹千円也	辻本直正(昭25大法)	金壹千円也	大西和男
金壹千円也	才野木義雄(昭12專二法)	金壹千円也	猪子修(昭11大商)	金壹千円也	猪木健次(昭25專一政)	金壹千円也	蕨陽一(昭27專一經)
金壹千円也	青木久雄(昭27專二法)	金壹千円也	倉知弘(昭20專一法)	金壹千円也	大谷利造(昭25專一法)	金壹千円也	高橋嘉明(昭28專一法)
金壹千円也	沢田養之助(昭16專二商)	金壹千円也	猪子修(昭11大商)	金壹千円也	星野太市郎(昭29專一法)	金壹千円也	田中繁男(昭28專一經)
金壹千円也	中西忠孝(昭6專二法)	金壹千円也	大川原与一(昭9專二經)	金壹千円也	倉知修(昭11大商)	金壹千円也	川島誠哉(昭11大經)
金壹千円也	服部福次(昭6專二法)	金壹千円也	伊藤保(昭17專二商)	金壹千円也	猪子修(昭11大商)	金壹千円也	河野健(昭28專一法)
金壹千円也	下阪丈夫(昭28專一法)	金壹千円也	延広一明(昭11專二商)	金壹千円也	星野太市郎(昭29專一法)	金壹千円也	川西健(昭29專一英)
金壹千円也	竹内俊郎(昭24專二法)	金壹千円也	吉本房造(昭10專一法)	金壹千円也	庄司佐兵衛(大13專一經)	金壹千円也	小川東吾(昭29專一英)
金壹千円也	山本榮夫(昭14專二法)	金壹千円也	山下勇次(昭16大政)	金壹千円也	佐藤一夫(昭9專一法)	金壹千円也	山田尚孝(昭29短大)
金壹千円也	辻原弘(昭13專二法)	金壹千円也	工藤正義(昭24大政)	金壹千円也	田中孝一(昭28專一經)	金壹千円也	樋口明(昭24專二經)
金壹千円也	内海利男(昭27專二法)	金壹千円也	野村功(昭14大商)	金壹千円也	田中梯二(昭28專一法)	金壹千円也	
金壹千円也	早稻田祐榮(昭27專二法)	金壹千円也	塩田亮(昭26專一法)	金壹千円也		金壹千円也	
金壹千円也	野原保(昭11專二商)	金壹千円也		金壹千円也		金壹千円也	

金壹千円也 鈴木淳三郎(昭17大経)
 金壹千円也 宇野貞二郎(昭27学二経)
 金壹千円也 吉村 利明(昭29学一法)
 金壹千円也 村上 博美(昭29学一経)
 金壹千円也 村井 信一(昭12専二法)
 金壹千円也 田中 章二(昭26専二法)

累計 金八拾万六千五百円也

四、教育後援会の部 (才一八回)

金貳拾万円也	石井 壽一(会長)	金貳萬円也	黒川庄次郎()	金五千円也	安藤 梅子	金貳千円也	青木染工場
金拾万円也	市岡 保徳(副会長)	金貳萬円也	山本英二郎()	金五千円也	大塚 正一	金貳千円也	富安 英作
金拾万円也	片川徳三郎(副会長)	金貳萬円也	松本品一()	金五千円也	吹田 君子	金貳千円也	阪本 政弘
金拾万円也	村上 千蔵()	金貳萬円也	木村薫次郎()	金五千円也	片野総一郎	金貳千円也	前田 稔吉
金五万円也	畑末彌市郎(常任委員)	金貳萬円也	杉本 圭造()	金五千円也	甲田七五三男	金貳千円也	芋生 信一
金五万円也	千本 行応()	金貳萬円也	北浦 正	金五千円也	溝口まつ子	金貳千円也	岡村 貞造
金五万円也	田辺 信()	金貳萬円也	入岡 社喜	金五千円也	小曾根真造	金貳千円也	下村 貞雄
金五万円也	山下石太郎()	金貳萬円也	小寺 計吉	金四千円也	福森 高義	金貳千円也	能美 清澄
金五万円也	東田 繁雄()	金貳萬円也	竹中意三郎	金四千円也	小谷 政治	金貳千円也	余部 治一
金五万円也	深田 敬憲()	金貳萬円也	井口 守	金三千円也	鈴木 八郎	金貳千円也	赤塚 幸雄
金五万円也	赤尾 俊信	金貳萬円也	山本宗治	金三千円也	江尻 秀吉	金貳千円也	橋和田恒一
金五万円也	山本 順応(幹事長)	金壹萬円也	平田春貞大郎	金三千円也	西村 誠一	金貳千円也	加賀 隆一
金五万円也	井上 晴次(委員)	金壹萬円也	今田 勝之	金三千円也	松本 つゆ	金貳千円也	杉尾 透爾
金五万円也	市口政太郎()	金壹萬円也	酒井 よし	金三千円也	寺田吉之助	金貳千円也	竹岸 政則
金五万円也	馬場 静夫()	金壹萬円也	後藤 恒雄	金三千円也	柏原 信次	金貳千円也	小山梅太郎
金五万円也	浜田 政一()	金壹萬円也	長谷川玉次	金三千円也	岡 清一郎	金貳千円也	清水 市松
金五万円也	小崎 新一()	金壹萬円也	別所亀四郎	金三千円也	有坂 忠士	金貳千円也	園弘 安
金五万円也	和田 政一()	金壹萬円也	高久 直信	金三千円也	天田 嘉一	金貳千円也	中井 鶴松
金五万円也	河合藤十郎()	金壹萬円也	大川彌太郎	金三千円也	杉山 太郎	金貳千円也	井野 周仙
金五万円也	吉府喜四郎()	金壹萬円也	北坂 友吉	金三千円也	杉山 太郎	金貳千円也	今井三三郎
金五万円也	横出 敏雄()	金壹萬円也	菅田 四郎	金三千円也	鳥山 秀映	金貳千円也	水谷喜三男
金五万円也	鶴田 武()	金壹萬円也	江頭 那次	金三千円也	八木 光一	金貳千円也	今谷喜三男
金五万円也	国崎 裕()	金壹萬円也	坂上 重武	金三千円也	岡 利裕	金貳千円也	川端 二一
金五万円也	松岡 孝義()	金壹萬円也	赤土 浩三	金三千円也	三井源一郎	金貳千円也	真柄 英吉
金五万円也	藤森 賛樹()	金壹萬円也	田中 善一	金三千円也	北野 隆造	金貳千円也	竹内理一郎
金五万円也	小池十太郎(委員)	金壹萬円也	黒川庄次郎	金三千円也	天谷 定吉	金貳千円也	井野 藤吉
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	東田熊三郎	金貳千円也	松岡 政彦
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	青田 敬正	金貳千円也	猪倉 勇助
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	毛利 正夫	金貳千円也	畑井 徳一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	服部 与吉	金貳千円也	中西大三郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	木村 憲一	金貳千円也	橋本 逸藏
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	一色 良子()	金貳千円也	畦本 逸邦
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	大畑 猶彦()	金貳千円也	池内得太郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	吉岡 善一()	金貳千円也	田中 文熊
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	第新 秀一()	金貳千円也	山崎 五郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	辻 敏則()	金貳千円也	小野 梅吉
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	中尾 輝和()	金貳千円也	青木染工場
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	黒川庄次郎()	金貳千円也	小山 政樹
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	山本英二郎()	金貳千円也	富安 英作
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	松本品一()	金貳千円也	阪本 政弘
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	木村薫次郎()	金貳千円也	前田 稔吉
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	杉本 圭造()	金貳千円也	芋生 信一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	北浦 正	金貳千円也	岡村 貞造
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	入岡 社喜	金貳千円也	下村 貞雄
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	小寺 計吉	金貳千円也	能美 清澄
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	竹中意三郎	金貳千円也	余部 治一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	井口 守	金貳千円也	赤塚 幸雄
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	山本宗治	金貳千円也	橋和田恒一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	平田春貞大郎	金貳千円也	加賀 隆一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	今田 勝之	金貳千円也	杉尾 透爾
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	酒井 よし	金貳千円也	竹岸 政則
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	後藤 恒雄	金貳千円也	小山梅太郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	長谷川玉次	金貳千円也	清水 市松
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	別所亀四郎	金貳千円也	園弘 安
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	高久 直信	金貳千円也	中井 鶴松
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	大川彌太郎	金貳千円也	井野 周仙
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	北坂 友吉	金貳千円也	今井三三郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	菅田 四郎	金貳千円也	水谷喜三男
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	江頭 那次	金貳千円也	今谷喜三男
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	坂上 重武	金貳千円也	川端 二一
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	赤土 浩三	金貳千円也	真柄 英吉
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	田中 善一	金貳千円也	竹内理一郎
金壹萬円也		金壹萬円也		金壹萬円也	黒川庄次郎	金貳千円也	井野 藤吉

金貳千円也 丁野 忠春
金貳千円也 久保 岩男
金貳千円也 谷光 鶴一
金貳千円也 中尾 正義
金貳千円也 佐藤 一二
金貳千円也 勢志久 治郎
金貳千円也 石原 一雄
金貳千円也 金子 替士
金貳千円也 東田 普次郎
金貳千円也 中田 茂吉
金貳千円也 入福 金之助
金貳千円也 上田 啓次郎
金貳千円也 森岡 享二
金貳千円也 山出 伊三郎
金貳千円也 松下 六彌
金貳千円也 川崎 碓
金貳千円也 石川 賢一
金貳千円也 植 源三
金貳千円也 蓮井 信次
金貳千円也 安部 為吉
金貳千円也 松田 政二
金貳千円也 塚村 沢一
金貳千円也 西村 駒太郎
金貳千円也 永原 元松
金貳千円也 宮浦 利雄
金貳千円也 東出 長司
金貳千円也 本間 卯之助
金貳千円也 田中 党治郎
金貳千円也 清川 忠治
金貳千円也 山口 秀盛
金貳千円也 田路 徳和歌
金貳千円也 眞村 納
金貳千円也 安田 政夫
金貳千円也 青砥 正一
金貳千円也 大西 繁次
金貳千円也 大倉 真一
金貳千円也 古田 幸一
金貳千円也 丸上 幸一

金貳千円也 上田 藤二郎
金貳千円也 森 正雄
金貳千円也 眞田 助三郎
金貳千円也 池井 金雄
金貳千円也 林 僧次郎
金貳千円也 矢野 一馬
金貳千円也 平山 文信
金貳千円也 妹尾 正
金貳千円也 連 多
金貳千円也 土倉 岩太郎
金貳千円也 津田 広二
金貳千円也 山本 徳久
金貳千円也 浮田 政市
金貳千円也 板谷 辰子
金貳千円也 玉井 傳之助
金貳千円也 足立 正
金貳千円也 岩堂 幾二
金貳千円也 三光 寺博昭
金貳千円也 中西 忠雄
金貳千円也 植平 民二
金貳千円也 田中 熊次
金貳千円也 市川 清二
金貳千円也 高浜 明治
金貳千円也 谷 種夫
金貳千円也 近藤 辨逸
金貳千円也 栗田 吉太郎
金貳千円也 納川 忠義
金貳千円也 林 辰雄
金貳千円也 永田 多士良
金貳千円也 藤本 正徳
金貳千円也 前田 多士良
金貳千円也 南善 一郎
金貳千円也 村井 庄太郎
金貳千円也 廣瀬 昇之助
金貳千円也 進藤 宇三郎
金貳千円也 南野 辰之助
金貳千円也 田中 喜造
中野 恵了

金貳千円也 荒野 政吉
金貳千円也 植松 蔵吉
金貳千円也 岡本 溪太郎
金貳千円也 竹下 百馬
金貳千円也 武藤 誠一
金貳千円也 植田 政利
金貳千円也 辰田 弁一
金壹千五百円也 森田 熙
金壹千円也 辻本 徳充
金壹千円也 春名 卓次郎
金壹千円也 藤井 貞朝
金壹千円也 坊阿 敏郎
金壹千円也 鍛冶 好正
金壹千円也 岸本 三郎
金壹千円也 上農 市房行
金壹千円也 野瀬 清
金壹千円也 江南 留吉
金壹千円也 増田 金一
金壹千円也 竹原 金吾
金壹千円也 木村 十三徳
金壹千円也 調留 正夫
金壹千円也 吉田 眞次郎
金壹千円也 角田 彌三兵衛
金壹千円也 貞包 超雄
金壹千円也 莊田 林造
金壹千円也 松永 徳治
金壹千円也 杉村 作太郎
金壹千円也 馬場 門吉
金壹千円也 岩原 寅次郎
金壹千円也 竹中 安太
金壹千円也 大城 勇造
金壹千円也 島津 徳三
金壹千円也 松原 やの
金壹千円也 神谷 チヨノ
金壹千円也 平田 泰造
金壹千円也 宮崎 八郎
吉川 錦治

金壹千円也 山岡 哲志士
金壹千円也 伊賀 本松
金壹千円也 溝口 主雄
金壹千円也 野村 富繁
金壹千円也 吉田 高夫
金壹千円也 小林 喜六
金壹千円也 西丸 一雄
金壹千円也 松本 義男
金壹千円也 阪本 輝太
金壹千円也 中村 翁治郎
金壹千円也 下川 茂
金壹千円也 広瀬 芳太郎
金壹千円也 岩田 公平
金壹千円也 中村 梅次郎
金壹千円也 山崎 誠
金壹千円也 東 綴
金壹千円也 小坂 与十郎
金壹千円也 田ノ岡 吉広
金壹千円也 多田 精一
金壹千円也 秦 寛一
金壹千円也 竹保 正一
金壹千円也 竹村 隆助
金壹千円也 三好 ミトメ
金壹千円也 公江 貞雄
金壹千円也 伴 栄初
金壹千円也 中谷 正由喜
金壹千円也 小畑 甚三郎
金壹千円也 藤本 勇雄
金壹千円也 玉井 盤夫
金壹千円也 田中 清太郎
金壹千円也 堀田 喜市
金壹千円也 吉田 永二
金壹千円也 桑原 克巳
金壹千円也 亀有 健次

金壹千円也 美和田幸吉
 金壹千円也 石川四郎
 金壹千円也 田中喜一
 金壹千円也 鈴木茂
 金壹千円也 森田捨藏
 金壹千円也 佐々木正
 金壹千円也 沢井菊雄
 金壹千円也 井上泰治
 金壹千円也 前島秀雄
 金壹千円也 柳田勇一
 金壹千円也 真島一楽
 金壹千円也 島谷正一
 金壹千円也 烟本章郎
 金壹千円也 宮本岩芳
 金壹千円也 青木忠作
 金壹千円也 上市尚之助
 金壹千円也 堀谷八治郎
 金壹千円也 中野逸治
 金壹千円也 岸野逸治
 金壹千円也 広田正雄
 金壹千円也 橋本明治
 金壹千円也 一柳庄太郎
 金壹千円也 西川雄之助
 金壹千円也 五十嵐金次郎
 金壹千円也 景山吉男
 金壹千円也 菅謙藏
 金壹千円也 平川惠庸
 金壹千円也 田村三郎
 金壹千円也 門前友次郎
 金壹千円也 山形芳平
 金壹千円也 釈迦戸貞治
 金壹千円也 水野善次郎
 金壹千円也 梶本猪三郎
 金壹千円也 奥野芳郎
 金壹千円也 杉野君子
 金壹千円也 根来常次郎
 金壹千円也 網野利一
 金壹千円也 宮田善夫

金壹千円也 晒切正清
 金壹千円也 上林信夫
 金壹千円也 佐藤菊松
 金壹千円也 水口喜一
 金壹千円也 花城安三
 金壹千円也 粉川良雄
 金壹千円也 安藤豊弘
 金壹千円也 小野喜一
 金壹千円也 岡村喜一
 金壹千円也 青木富三郎
 金壹千円也 魚里博
 金壹千円也 段田清太郎
 金壹千円也 伊藤尚一
 金壹千円也 野村安広
 金壹千円也 田中龍二
 金壹千円也 浜田義隆
 金壹千円也 内田甚三郎
 金壹千円也 辻田長造
 金壹千円也 吉田福松
 金壹千円也 河島美之吉
 金壹千円也 勝田梅太郎
 金壹千円也 佃繁一
 金壹千円也 八里傳治郎
 金壹千円也 竹内忠興
 金壹千円也 岡本重美
 金壹千円也 添谷忠太郎
 金壹千円也 大谷地元一
 金壹千円也 才藤彦十郎
 金壹千円也 平岡謙一郎
 金壹千円也 西村健一
 金壹千円也 谷健一
 金壹千円也 磯見宇一
 金壹千円也 都松豊
 金壹千円也 櫻谷福松
 金壹千円也 田中定雄
 金壹千円也 真山利七
 金壹千円也 朴福

金壹千円也 市位暉一
 金壹千円也 間々田博公
 金壹千円也 大野広義
 金壹千円也 南部浅次郎
 金壹千円也 神田耕作
 金壹千円也 福島一麿
 金壹千円也 山崎一応
 金壹千円也 家近満直
 金壹千円也 福井栄次
 金壹千円也 能登良三
 金壹千円也 尾西平太郎
 金壹千円也 西浦治三郎
 金壹千円也 小山隆平
 金壹千円也 入谷役吉
 金壹千円也 北村光華
 金壹千円也 岡村四郎
 金壹千円也 八原清光
 金壹千円也 泉良輔
 金壹千円也 竹内秀太郎
 金壹千円也 貞鍋彌太郎
 金壹千円也 鈴木正俊
 金壹千円也 樋口宗淳
 金壹千円也 鶴谷重太郎
 金壹千円也 大田垣英三
 金壹千円也 竹中茂治
 金壹千円也 浜口義一
 金壹千円也 福島卯一郎
 金壹千円也 田中実隆
 金壹千円也 角田有恒
 金壹千円也 金子金次郎
 金壹千円也 福田徳次郎
 金壹千円也 貞鍋勇
 金壹千円也 法月有造
 金壹千円也 永田有造
 金壹千円也 藤川勝助
 金壹千円也 岡田明江
 金壹千円也 前田庄作
 金壹千円也 柳原久次郎

金壹千円也 山中忠雄
 金壹千円也 赤松磯吉
 金壹千円也 藤田鉄男
 金壹千円也 杉田良藏
 金壹千円也 森本康男
 金壹千円也 木村隼男
 金壹千円也 北本フサ子
 金壹千円也 中井清卓
 金壹千円也 島善次
 金壹千円也 松本吉正
 金壹千円也 北橋利治
 金壹千円也 下田敏正
 金壹千円也 横部敬一
 金壹千円也 飯尾良宏
 金壹千円也 山中勇
 金壹千円也 山根勝
 金壹千円也 藤野三吉
 金壹千円也 日野義三
 金壹千円也 岡田恒男
 金壹千円也 尾崎英輔
 金壹千円也 大前涼一
 金壹千円也 北上勝
 金壹千円也 吉本一
 金壹千円也 植村伊一郎
 金壹千円也 蓮宮慶治
 金壹千円也 岡本晴夫
 金壹千円也 青山登志夫
 金壹千円也 伊東徳一郎
 金壹千円也 村上豊太郎
 金壹千円也 村田忠直
 金壹千円也 道田繁
 金壹千円也 竹元直
 金壹千円也 高野福松
 金壹千円也 北村徳直
 金壹千円也 伊東武夫
 金壹千円也 若林伝二郎
 金壹千円也 飯塚清一
 金壹千円也 今堀長平
 金壹千円也 上山留吉
 金壹千円也 小西シオ
 金壹千円也 小端達夫

金壹千円也 永野彌三郎
 金壹千円也 村上春義
 金壹千円也 堀富美枝
 金壹千円也 松本サエ
 金壹千円也 北村宣郎
 金壹千円也 福原宗二
 金壹千円也 稻山勇次郎
 金壹千円也 岡崎敬三郎
 金壹千円也 網崎猪之輔
 金壹千円也 向井甚右衛門
 金壹千円也 森増兵一
 金壹千円也 端山兵一
 金壹千円也 森崎敬三郎
 金壹千円也 細井真次郎
 金壹千円也 田中正雄
 金壹千円也 植田義一
 金壹千円也 山本次郎
 金壹千円也 殿谷伊勢三
 金壹千円也 宮本岩太郎
 金壹千円也 坂根末人
 金壹千円也 真瀬元雄
 金壹千円也 真野伊勢治
 金壹千円也 下中忠一
 金壹千円也 三上貞夫
 金壹千円也 降井貞夫
 金壹千円也 佐古貞夫
 金壹千円也 西尾義撰
 金壹千円也 辻江幾藏
 金壹千円也 島かず系
 金壹千円也 金江太郎
 金壹千円也 木村甲辰
 金壹千円也 多田梅吉
 金壹千円也 西田市松
 金壹千円也 青田利一
 金壹千円也 福井重吉
 金壹千円也 木下末吉
 金壹千円也 喜多隆夫
 金壹千円也 降矢保隆
 金壹千円也 林中盛勝
 金壹千円也 中島鉄五郎
 金壹千円也 小野歌之輔
 金壹千円也 榊井庄三郎

金壹千円也 山口礼一
 金壹千円也 岩井万之助
 金壹千円也 小山敏雄
 金壹千円也 郡山季治
 金壹千円也 今里実
 金壹千円也 岩井四郎
 金壹千円也 角田憲二
 金壹千円也 森田尙男
 金壹千円也 秋山嘉夫
 金壹千円也 河竹正一郎
 金壹千円也 杉山栄一
 金壹千円也 西浦三治郎
 金壹千円也 田原秀雄
 金壹千円也 南川秀之助
 金壹千円也 酒井寛二
 金壹千円也 板金光造
 金壹千円也 伊藤春男
 金壹千円也 八代芳孝
 金壹千円也 佃啓三
 金壹千円也 安田六三郎
 金壹千円也 寺岡倉一
 金壹千円也 平九重
 金壹千円也 浪花寺三郎
 金壹千円也 梅本ヨシヨ
 金壹千円也 野村勝三
 金壹千円也 野村恵夫
 金壹千円也 橋本三郎
 金壹千円也 北浦彌三郎
 金壹千円也 大谷和夫
 金壹千円也 橘秀子
 金壹千円也 木村てるゑ
 金壹千円也 中尾保
 金壹千円也 津田健一
 金壹千円也 平井喜一
 金壹千円也 中尾ヒデ
 金壹千円也 永井勝藏
 金壹千円也 平井彦一
 金壹千円也 土井原信五郎

金壹千円也 木村辰三
 金壹千円也 大和芳太郎
 金壹千円也 杉本時三
 金壹千円也 彌屋田助
 金壹千円也 池田秀夫
 金壹千円也 大西ユキエ
 金壹千円也 津川武平
 金壹千円也 寺岡竹次
 金壹千円也 田中重一
 金壹千円也 瓜生近彌
 金壹千円也 林義光
 金壹千円也 佐藤博
 金壹千円也 水谷トキ
 金壹千円也 小椋義作
 金壹千円也 藤原和悦
 金壹千円也 福島佐和悦
 金壹千円也 津田亮三
 金壹千円也 藤原輝司
 金壹千円也 小西伊兵衛
 金壹千円也 山村豊
 金壹千円也 中田重助
 金壹千円也 中西欣二
 金壹千円也 中西富志夫
 金壹千円也 藤原助五郎
 金壹千円也 大杉正雄
 金壹千円也 増山正雄
 金壹千円也 荒木吉司
 金壹千円也 間所百三
 金壹千円也 内藤義雄
 金壹千円也 北岸利一
 金壹千円也 羽柴巖
 金壹千円也 土谷清三郎
 金壹千円也 岡本美徳
 金壹千円也 登山正夫
 金壹千円也 石田治
 金壹千円也 井沢録吉
 金壹千円也 木戸松生
 金壹千円也 森市松

金壹千円也 岸上喜代治
 金壹千円也 塚田常治郎
 金壹千円也 高田利一郎
 金壹千円也 中野好三
 金壹千円也 辻本常次郎
 金壹千円也 小畑道次郎
 金壹千円也 南幸次
 金壹千円也 後藤英夫
 金壹千円也 樋口富佐恵
 金壹千円也 林元徳
 金壹千円也 德山元徳
 金壹千円也 重見新九郎
 金壹千円也 原潤二
 金壹千円也 安藤勝利
 金壹千円也 中熊高重
 金壹千円也 中西助一
 金壹千円也 福本岩三
 金壹千円也 岡崎義一
 金壹千円也 中川徳良
 金壹千円也 藤野茂次郎
 金壹千円也 淵野信行
 金壹千円也 黒岩鳴実
 金壹千円也 坂口春一
 金壹千円也 北川春一
 金壹千円也 胡本榮松
 金壹千円也 安田茨男
 金壹千円也 岩井晴治
 金壹千円也 牧井真毅
 金壹千円也 岡倉真毅
 金壹千円也 榊田留三
 金壹千円也 津田省三
 金壹千円也 中川昇一
 金壹千円也 黄谷昇二
 金壹千円也 小山真一郎

金壹千円也 井田 直
 金壹千円也 淺堀 実三
 金壹千円也 高阪 晃一
 金壹千円也 小島岩次郎
 金壹千円也 多田 克
 金壹千円也 森本 政一
 金壹千円也 藤井千代子
 金壹千円也 金原 藤吉
 金壹千円也 柏原 玉次
 金壹千円也 野崎 正男
 金壹千円也 森田 定子
 金壹千円也 盛 太吉
 金壹千円也 松浦 清治
 金壹千円也 池田愈幾人
 金壹千円也 蓮室 芳一
 金壹千円也 山本 金一
 金壹千円也 宮内 堅雄
 金壹千円也 原田 新一
 金壹千円也 神田吉之助
 金壹千円也 神野 壽
 金壹千円也 高木志茂子
 金壹千円也 山口 康子
 金壹千円也 神代 良馬
 金壹千円也 森村 榮雄
 金五百円也 牧野 正治

五、學校法人關西大學の部

〔1〕理事、監事 (才一・二回)

金貳拾万円也 白川 朋吉(理事長)
 金拾八万円也 久井 忠雄(専務理事)
 金拾万円也 岩崎 卯一(学長 理事)
 金七万円也 矢野 文雄(常務監事)
 金五万円也 宇佐美正禎(理事)
 金五万円也 木村 健助()
 金五万円也 西本 寛一()
 金五万円也 春原源太郎()
 金五万円也 宮島 綱男()

〔2〕評議員 (才一七回)

金七万円也 阿倍 甚吉
 金五万円也 中務 平吉(評議員長)
 金五万円也 樫本 信雄(副議員長)
 金五万円也 大石雄一郎
 金五万円也 武田謙之助
 金五万円也 長柄 金吾
 金五万円也 福田 繁芳
 金五万円也 今井 康策
 金五万円也 松尾 高一
 金五万円也 下条小野右衛門
 金參万五千円也 桂 忠雄
 金參万円也 池田信之助
 金參万円也 大小島真二
 金參万円也 神屋敷民藏
 金參万円也 水谷 揆一
 金參万円也 原田鹿太郎
 金參万円也 山崎 敬義
 金參万円也 和田 豊二
 金參万円也 高椋 正次
 金參万円也 高垣 善一
 金貳万五千円也 戸根 泰雄
 金貳万円也 明石 三郎
 金貳万円也 今西庄次郎
 金貳万円也 大島 武夫
 金貳万円也 沢村 榮治
 金貳万円也 関 豊馬
 金貳万円也 松原 藤由
 金貳万円也 村尾 静明
 金貳万円也 平井 三朋

金貳万円也 内藤 正剛
 金貳万円也 保井 剛一
 金貳万円也 矢口 家治
 金貳万円也 大月 伸
 金貳万円也 木原 繁実
 金壹万五千円也 近藤 政士
 金壹万五千円也 三島 律夫
 金壹万五千円也 四辻 詮
 金壹万四千円也 森 寛紹
 金壹万貳千円也 松村 勝鴻
 金壹万円也 江里口春志
 金壹万円也 織田佐代治
 金壹万円也 角田好太郎
 金壹万円也 鈴木 祥藏
 金壹万円也 竹沢喜代治
 金壹万円也 中村 正雄
 金壹万円也 政井 武
 金壹万円也 松葉徳三郎
 金壹万円也 吉田三七雄
 金壹万円也 岡部 親徳
 金壹千円也 中村敏治郎
 藤野 春三

六、教育職員の部

〔1〕大 學 (才一四回)

金拾万円也 岩崎 卯一
 金五万円也 岡野留次郎
 金五万円也 森川 太郎
 金五万円也 木村 健助
 金五万円也 板橋 菊松
 金五万円也 西本 寛一
 金五万円也 飯田 正一
 金五万円也 植田 重正
 金五万円也 上道 直夫
 金參万円也 大小島真二
 金參万円也 高橋 盛孝
 金貳万円也 堀 正人
 金貳万円也 水谷 揆一
 金貳万円也 山田松太郎
 金貳万円也 佐伯三郎
 金貳万円也 中川庸太郎
 金貳万円也 矢口孝次郎
 金貳万円也 河村 豊介
 金貳万円也 和田 宣二
 金貳万円也 中谷 敬壽
 金貳万円也 明石 三郎
 金貳万円也 井上吉次郎
 金貳万円也 榎本金次郎
 金貳万円也 金子又兵衛
 金貳万円也 川上 敬逸
 金貳万円也 沢瀉 久孝
 金貳万円也 島田 退藏
 金貳万円也 進藤清二郎
 金貳万円也 末永 雅雄
 金貳万円也 田中 熙
 金貳万円也 中井 駿二
 金貳万円也 広瀬 捨三
 金貳万円也 福島 四郎
 金貳万円也 藤田進一郎
 金貳万円也 吉永 登
 金貳万円也 池垣定太郎
 金貳万円也 桜田 馨
 金貳万円也 沢村 榮治
 金貳万円也 三谷 友吉
 金貳万円也 松原 藤由
 金貳万円也 今西庄次郎
 金貳万円也 河村 信一
 金貳万円也 角田 文雄
 金貳万円也 山口 辰雄
 金貳万円也 池田 榮
 金貳万円也 太田 鷗一
 金壹万五千円也 小野 勇
 金壹万五千円也 原 弘二郎

金壹万五千元也	横田 健一
金壹万五千元也	中 義勝
金壹万五千元也	加藤由次郎
金壹万五千元也	鋤方 貞亮
金壹万五千元也	宇田 米夫
金壹万五千元也	入江 深
金壹万貳千元也	石浜純太郎
金壹万貳千元也	壺井 義正
金壹万貳千元也	福本喜之助
金壹万貳千元也	橋田 慶藏
金壹万貳千元也	富山 忠三
金壹万貳千元也	広岡 英雄
金壹万貳千元也	見次 直雄
金壹万貳千元也	渡辺宗太郎
金壹万貳千元也	藤本 是
金壹万貳千元也	三上 謙聰
金壹万貳千元也	山本榮一郎
金壹万貳千元也	秋山 博愛
金壹万貳千元也	鈴木 祥藏
金壹万貳千元也	岩本 慧
金壹万貳千元也	高木 秀玄
金壹万貳千元也	杉原 四郎
金壹万貳千元也	植野 郁太
金壹万貳千元也	山崎 紀男
金壹万貳千元也	賀屋 俊雄
金壹万貳千元也	河野 稔
金壹万貳千元也	安田 信一
金壹万貳千元也	石尾 芳久
金壹万貳千元也	餘江 城夫
金壹万貳千元也	堀田 修
金八千元也	本浪 章市
金七千元也	上林 良一
金七千元也	原 英次
金七千元也	寛田 知義
金七千元也	川口 勇
金六千元也	荒井 政治
金五千元也	東井 正美

金五千元也	市原 亮平
金五千元也	柏尾 昌哉
金五千元也	河合 信雄
金五千元也	酒井 文雄
金五千元也	増田 忠雄
金五千元也	中村良之助
金参千元也	大西 昭男
金貳千元也	高本 昇
金貳千元也	有田 稔
金貳千元也	津川 正幸
金貳千元也	末政 芳信
金貳千元也	高堂 俊彌
金貳千元也	清水 宗一
金貳千元也	名取 榮史
金貳千元也	田中 英三
金貳千元也	蘭田 香融
金貳千元也	多田 敏男

累計 金百七拾九万貳千元也

【2】第一高等學校 (才一、二回)

金貳万五千元也	矢口 家治
金七千元也	四辻 詮
金七千元也	下島 光
金七千元也	勝島 芳松
金七千元也	藤本榮治郎
金七千元也	川村 善助
金七千元也	佐々木康雄
金七千元也	富田恭二郎
金四千元也	半井 清
金四千元也	原 雄次郎
金四千元也	平田 善明
金四千元也	長谷川雅樹
金四千元也	黒岩 博
金四千元也	馬渡権兵衛
金四千元也	奥村 二郎
金四千元也	堀江 藤晶
金四千元也	栗駒 正和
金四千元也	中小路泰夫

金四千元也	淡口 誠也
金四千元也	渡辺多加二
金四千元也	西岡 寛
金四千元也	土部 弘
金貳千元也	田中 昭平
金貳千元也	岩田 剛治

累計 金拾参万四千円也

【3】第一中學校

金壹万五千元也	三島 律夫
金壹万貳千元也	政井 武
金壹万貳千元也	岡持敬次郎
金壹万貳千元也	小林 清太
金壹万貳千元也	富永 敬夫
金壹万貳千元也	原田 勇
金壹万貳千元也	吉川 秀義
金壹万貳千元也	市田彌一郎
金壹万貳千元也	陰山 晃雄
金壹万貳千元也	佐橋 滋夫
金壹万貳千元也	高橋 猛
金壹万貳千元也	中野 真作
金壹万貳千元也	吉富 二郎
金壹万貳千元也	木村 昌三
金壹万貳千元也	清水 邦郎
金壹万貳千元也	岩倉 猛利

累計 金五千元也

【4】幼稚園 (才一、二回)

金壹千元也	渡辺百合子
金壹千元也	小林 和子
金壹千元也	荒木 道子
金壹千元也	橋田千代子
金壹千元也	田村 静香

七、事務職員の部 (才一、四回)

金参万五千元也	持 忠雄
金参万五千元也	池田信之助
金貳万五千元也	安井 章吾
金貳万五千元也	土橋 四三
金貳万五千元也	天野敬太郎
金貳万五千元也	平井 三朗
金貳万五千元也	齋藤 善三
金貳万五千元也	鈴木 末広
金貳万五千元也	田中 一郎
金貳万五千元也	且 菊男
金貳万五千元也	大山 綱憲
金壹万五千元也	鉄井 良男
金壹万五千元也	田中治良太夫
金壹万五千元也	水野 治
金壹万五千元也	木戸 一郎
金壹万五千元也	後藤 壽昭
金壹万五千元也	徳田誠一郎
金壹万五千元也	水野 三郎
金壹万五千元也	齋藤 政信
金壹万五千元也	中山 敏
金壹万五千元也	山脇 智
金壹万五千元也	山村 彰
金壹万五千元也	天野 宗一
金壹万五千元也	吉田甲一郎
金壹万五千元也	川澄 秋一
金壹万五千元也	宮脇慎三郎
金壹万五千元也	山口 辰男
金壹万五千元也	中江 巽
金壹万五千元也	秋山 剛
金壹万五千元也	萩 浩志
金壹万五千元也	有福 健
金壹万五千元也	佐伯 博臣
金壹万五千元也	松家 繁一
金壹万五千元也	山元 文雄
金壹万五千元也	高木 新

金六千円也 赤松 祐玄
金五千円也 山本 景造
金五千円也 羽野 堅二
金五千円也 松本長右衛門
金五千円也 村上 仙三
金五千円也 阪本銀之助
金五千円也 岡田 武司
金五千円也 辻見 重行
金五千円也 金田 雅一
金五千円也 酒井 彦一
金五千円也 山景 耕作
金五千円也 横山 茂昭
金五千円也 出水 泰祐
金五千円也 塩崎 三郎
金五千円也 小幡 務
金五千円也 西尾 康
金五千円也 山中 林三
金五千円也 野原 博
金五千円也 淡瀬 義雄
金五千円也 水野 富藏
金五千円也 上田 綱三郎
金五千円也 繁本 明
金五千円也 毛尾 泰造
金五千円也 柏原 保祐
金四千五百円也 原 幸作
金四千五百円也 片岡権治郎
金四千五百円也 山路 貞藏
金四千円也 大沢寛治郎
金四千円也 上田 実
金四千円也 田中 豊子
金四千円也 鈴木 得稔
金四千五百円也 郡司 英雄
金四千五百円也 穴田 元治
金四千五百円也 田村 桂一
金四千五百円也 米田 ヨネ
金四千五百円也 伊藤 保
金四千五百円也 中村 富夫
金四千五百円也 藤本 龍造

金参千五百円也 渡辺 五郎
金参千円也 松本 俊
金参千円也 植村憲三郎
金参千円也 杉原 常彦
金参千円也 八島 妙子
金参千円也 小西 芳子
金参千円也 藤堂 静枝
金参千円也 大浜 永子
金参千円也 磯矢 健吉
金参千円也 河野ツヤ子
金参千円也 下村松次郎
金参千円也 田中亀代治
金参千円也 四井庄太郎
金参千円也 横田美壽子
金参千円也 盛 清子
金参千円也 芳田 文子
金参千円也 古志 祐一
金参千円也 石橋 直造
金参千円也 安宅 雅夫
金参千円也 大浦 まさ
金参千円也 山野 義松
金参千円也 亀井富之助
金参千円也 永易 啓太郎
金参千円也 武田 正夫
金参千円也 水口 博喜
金参千円也 山本 チカ
金参千円也 元永 栄
金参千円也 中山 義一
金参千円也 土肥治一郎
金参千円也 萬里小路通宗
金参千円也 荒川 淑子
金参千円也 中川 義信
金参千円也 高橋 知子
金参千円也 郡司 忠義
金参千円也 三宅 セイ
金参千五百円也 西村富美子
金参千五百円也 水野 敏雄
金参千五百円也 細部 栄三郎

金貳千五百円也 田中美津子
金貳千五百円也 小谷 久子
金貳千五百円也 岸田要次郎
金貳千五百円也 杉島 治郎
金貳千五百円也 石田 寸え
金貳千五百円也 井上 静子
金貳千五百円也 棚田ひさの
金貳千五百円也 高田 静子
金貳千五百円也 野元 喜藏
金貳千五百円也 山本亥太郎
金貳千五百円也 上田 久子
金貳千五百円也 山下 正隆
金貳千五百円也 阪本 龍三
金貳千五百円也 工藤まさの
金貳千五百円也 氏原 みの
金貳千五百円也 田熊謂津子
金貳千五百円也 森川 彰
金貳千五百円也 大橋 勳
金貳千五百円也 井村 昌子
金貳千五百円也 増原依智子
金貳千五百円也 向井喜代子
金貳千五百円也 前田 房吉
金貳千円也 西 沢子
金貳千円也 木林 絹子
金貳千円也 森本 甫
金貳千円也 渡辺 延子
金貳千円也 多田 幸子
金貳千円也 加藤 智子
金貳千円也 寺岡 正子
金貳千円也 谷井 千代
金貳千円也 宮中 光子
金貳千円也 中地 三雄
金貳千円也 北村 秀子
金貳千円也 森 セツ
金貳千円也 植田ミサエ
金貳千円也 石田フジエ
金貳千円也 坪内 眞
赤松 猛

金貳千円也 伊勢 計典
金貳千円也 横田 育子
金貳千円也 上山 喜雄
金貳千円也 高瀬 欣和
金貳千円也 木田 朋子
金貳千円也 池永 ミツ
金貳千円也 松田 稔
金貳千円也 山中 葉子
金貳千円也 市山 久柴
金貳千円也 稻置 和子
金貳千円也 三浦 洋子
金貳千円也 小西愛之助
金貳千円也 今村 公子
金貳千円也 西本 眸
金貳千円也 梶山 絹
金貳千円也 真下香代子
金貳千円也 宮中 市子
金貳千円也 上之山慶一
金貳千円也 船引潤一郎
金貳千円也 上林 那子
金貳千円也 大場 義之
金貳千円也 松下 健次
金貳千円也 広野壽美子
金貳千円也 今村 嘉之
金貳千円也 加藤 幸広
金貳千円也 大西壽美子
金貳千円也 橋長 菊子
金貳千円也 勢井 かう
金貳千円也 山本 照夫
金貳千円也 長本幸太郎
金貳千円也 滝本 甚一
金貳千円也 三島 宣子
金貳千円也 天野美津子
金貳千円也 和田 徳子
金貳千五百円也 山口 秀児
金貳千五百円也 而下喜久子
金貳千五百円也 宮脇喜三江

